



墨田区観光振興プラン

東京スカイツリー®を活かし、暮らしてよく、訪れてよい、「国際観光都市すみだ」をつくる

平成27年4月



墨田区観光振興プランの策定にあたって

墨田区には、隅田川の花火、墨堤の桜、大相撲、向島花街、隅田川七福神、和菓子・ちゃんこ鍋等の伝統的な食、伝統工芸など、江戸時代からの文化が色濃く残っています。明治以降は、ものづくりのまちとして発展してきましたが、来街者の増加や賑わいの創出による地域経済の活性化を図るため、平成16年に観光振興プランをはじめて策定しました。

その後、平成18年3月に新タワーの建設地が本区の押上・業平橋地区に決定したこと等を受けて、平成20年に観光振興プランの改訂を行いました。

この間、「国際観光都市すみだ」の実現をめざして、東京スカイツリーを起爆剤としたさまざまな観光振興施策にハード・ソフトの両面から取り組んできた結果、現在では国内外から多くの観光客が墨田区を訪れています。

今回の墨田区観光振興プランの策定は、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催が決定し、今後ますます本区を訪れる外国人観光客の増加が見込まれ、受け入れ体制を整備する必要があること等から、平成20年に策定した観光振興プランを1年前倒しして改定するものです。

このプランでは、重点的・先導的に取り組むテーマとして、本区の数ある観光資源の中でも「北斎・江戸文化」「産業と観光の融合」「水都すみだ」を重点的・戦略的に展開することとしています。特に「北斎と江戸文化」については、墨田区生まれの葛飾北斎を顕彰するためこれまで準備をしてきた「すみだ北斎美術館」の開設を平成28年度に予定していることから、江戸東京博物館、郵政博物館、たばこと塩の博物館、区内に点在する小さな博物館等と連携し、両国から東京スカイツリーまでの間を文化施設が集積する「すみだ文化ゾーン」として広く発信してまいりたいと考えております。

一般社団法人墨田区観光協会、民間事業者や区民の皆さんとともに、総力を挙げて、東京スカイツリーを活かし、暮らしてよく、訪れてよい「国際観光都市すみだ」の実現をめざして、このプランを推進してまいります。

平成27年（2015年）4月

墨田区長 山崎 昇

墨田区観光振興プランの改定にあたって

～成熟した観光まちづくりを先導することを目指して

まち歩き観光を推進することから始まった墨田区観光。東京スカイツリー建設の決定を受け、新タワーの名称決定を待たずに第二次観光振興プランを策定。第三次観光振興プラン改定は、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の決定への迅速な対応が、その契機となりました。

今回のプラン改定では、これまでの墨田区観光を客観的に実績評価するとともに、我が国の将来的な観光の姿をどのように見定め、それを受け止める地域の姿をどのように描くかが大きなテーマとなりました。また、東京スカイツリーのある「SUMIDA」は、国際的知名度を獲得する機会を最大限発揮しているかが、国際スポーツイベントを迎えるにあたっての大きな課題として認識されました。そのため、観光に関連する多くの組織・団体の方々からこれまでの取組みの評価と今後の展開への示唆をいただくとともに、外国人観光客等の実態及び観光ニーズ等調査、観光消費額等調査なども合わせて実施し、実態に即した「墨田区観光の“これまで”と、そして“これから”」について検討を重ね、今回の第三次の観光振興プラン改定の提案に至りました。

墨田区の観光への取組みに共通する特徴は、観光のまなざしや潮流を受けとめて新しい取り組みを実践する『進取の精神』にあります。東日本大震災以降の国民意識の変化による観光行動への大きな変革に直面している現状、為替変動の追い風を受けて訪日外国人観光客の増加が期待される動向等を踏まえ、墨田ならではの観光面での進取の精神として、『真の国際観光都市』『墨田区観光を育む観光教育』『観光における防災・減災』の3つのテーマが、国際スポーツイベントを迎えるための地域での備えとして重要であることが、今次の墨田区観光振興プラン改定の礎となっています。

また、観光振興プランは、観光に関わる総合的な施策を位置づけている関係から、得てして総花的な表現となりがちです。オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を目標とし、より重点的に進める取組みを明記することで、『国際観光都市すみだ』に確実に近づけるような観光施策プログラムを構成することに注力いたしました。さらに、墨田区観光事業の確実かつ効果的な推進方策として、一般社団法人墨田区観光協会をはじめとする関係組織・団体がプラットフォームを形成し、お互いの組織・団体の特徴を認め合いつつ観光に関わることを位置づけられたことは、今後の成熟した観光まちづくり推進の新しいモデルともなる特徴的な取組みであります。

庁外検討委員会での検討成果について、庁内の様々な部署から構成された庁内検討委員会において実現に向けての調整をいただき、また区民の皆様からのご意見もいただいて策定されました『墨田区観光振興プラン（改定版）』が、墨田区観光のバイブルとなり、世界からの認知・評価をされますこと、また墨田区を訪れた多くの方々との交流を通じて地元区民の皆様が誇りと愛着のもてる墨田区となりますことを願っています。

最後に、ヒアリングや各種調査にご協力いただいた皆様、庁内検討委員会で調整をいただいた委員各位、そして庁外検討委員会の委員各位のご協力に深謝申し上げます。

平成 27 年（2015 年）4 月

墨田区観光振興プラン（改定版）庁外検討委員会を代表して 委員長 **大下 茂**

墨田区観光振興プラン

目次

第1章 計画改定の背景	1
1. 近年の観光振興の全国的動向	1
2. すみだ観光のこれまで ～これまでの取組み～	2
3. すみだ観光のこれから ～今後の観光振興に求められていること～	6
第2章 目標とする観光のすがた	8
1. 計画の目標	8
2. 計画期間	9
3. 観光振興の基本理念	10
4. 観光都市づくりの視点	13
5. 観光振興の課題	15
第3章 基本戦略	20
戦略 : 観光プロモーションの充実	21
戦略 : 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集	22
戦略 : 産業と観光の融合	23
戦略 : 水都すみだの再生	24
戦略 : 観光振興を支える基盤の充実	25
第4章 基本施策	26
戦略 : 観光プロモーションの充実	28
戦略 : 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集	37
戦略 : 産業と観光の融合	45
戦略 : 水都すみだの再生	51
戦略 : 観光振興を支える基盤の充実	56
第5章 リーディングプロジェクト	63
リーディングプロジェクト 3つの戦略拠点を核とした観光振興の推進と 広域連携強化	64
リーディングプロジェクト 「お・も・て・な・し」の展開 ～国際観光都市をめざして～	70
リーディングプロジェクト 都市トランジット観光の推進 ～移動すること自体が楽しい観光地づくり～	73
第6章 実現化の仕組み	78
1. 「すみだ観光力」の向上と「すみだモデル」の構築	78
2. 担い手の役割と人材育成	79
3. 観光振興に向けた様々な連携	81
4. 観光振興に向けたプラットフォームづくり	84
参考資料	85

第1章 計画改定の背景

1. 近年の観光振興の全国的動向

地域活性化の鍵を握っている“観光振興”

我国は、平成17年から人口減少社会に転じており、社会の成熟化に伴って「モノ」から「ココロ」へ、「経済重視」から「人間重視」へと価値観が変化してきました。

また、従前は、定住人口の増加によって生産や消費を押し上げ、経済成長を図ってきましたが、現在は、知力、文化力、情報力といったソフト戦略を強化し、文化交流を進め、交流人口の増加を図ることが、地域経済の発展・活性化の大きなテーマとなっています。

こうした時代にあって観光振興は、文化交流の促進、交流人口の増大による地域経済の発展・活性化の鍵を握っており、多くの都市で観光振興の取組みが積極的に進められている状況にあります。

“観光振興”は国や都の重点分野

国では、観光振興を重要な国家戦略の一つとして掲げており、平成18年12月の観光立国推進基本法の制定、平成20年10月の観光庁の設置など、様々な取組みを行っています。特に、外国人観光客の獲得に向けた取組みに力を入れており、訪日旅行促進事業（ビジット・ジャパン事業）を継続的に実施しています。

一方、東京都でも観光産業は多くの産業に経済波及効果をもたらすと同時に、飛躍的な成長が見込まれる産業として位置付けており、平成13年度から観光に関する部署を設置して観光振興に取り組んでいます。また、2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決定したことを受けて、「東京都長期ビジョン（平成26年12月／東京都）」の基本目標に「史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現」を掲げるとともに、「外国人旅行者の受入環境整備方針（平成26年12月／東京都）」を策定し、「世界一のおもてなし都市・東京」の実現に向けた取組みを進めています。「外国人旅行者の受入環境整備方針」に示された「重点整備エリア」には、本区の東京スカイツリー周辺や両国も含まれており、これらの地域では外国人観光客への案内機能の向上が特に求められています。

観光を巡る地域間競争と若年層の旅行離れ

観光振興は地域活性化の切り札として、全国の様々な地域で取組みが行われており、観光を巡る都市間競争、地域間競争は以前よりも激しくなっています。このため、こ

れからの観光振興においては、その地域ならではの資源を磨き上げ、他地域にはない観光的魅力を創造し、高めていくことがますます重要となっています。

また、ライフスタイルや消費行動の変化などによって、若年層の旅行離れが進んでいるとの指摘もあり、これからの観光振興にあたってはこうした逆風も十分に踏まえることも重要であり、その意味においても、次世代の観光振興の担い手の育成に努めていくことが求められています。

2. すみだ観光のこれまで ～これまでの取組み～

先に示した時代背景を踏まえ、墨田区ではこれまでも観光振興の取組みを継続的に行っており、一定の成果を上げています。具体的には、墨田区の特徴、時代の要請、社会経済状況の変化などを踏まえて観光振興プランを策定・改訂するとともに、これに基づいて観光振興に関わる様々な取組みを実施してきました。

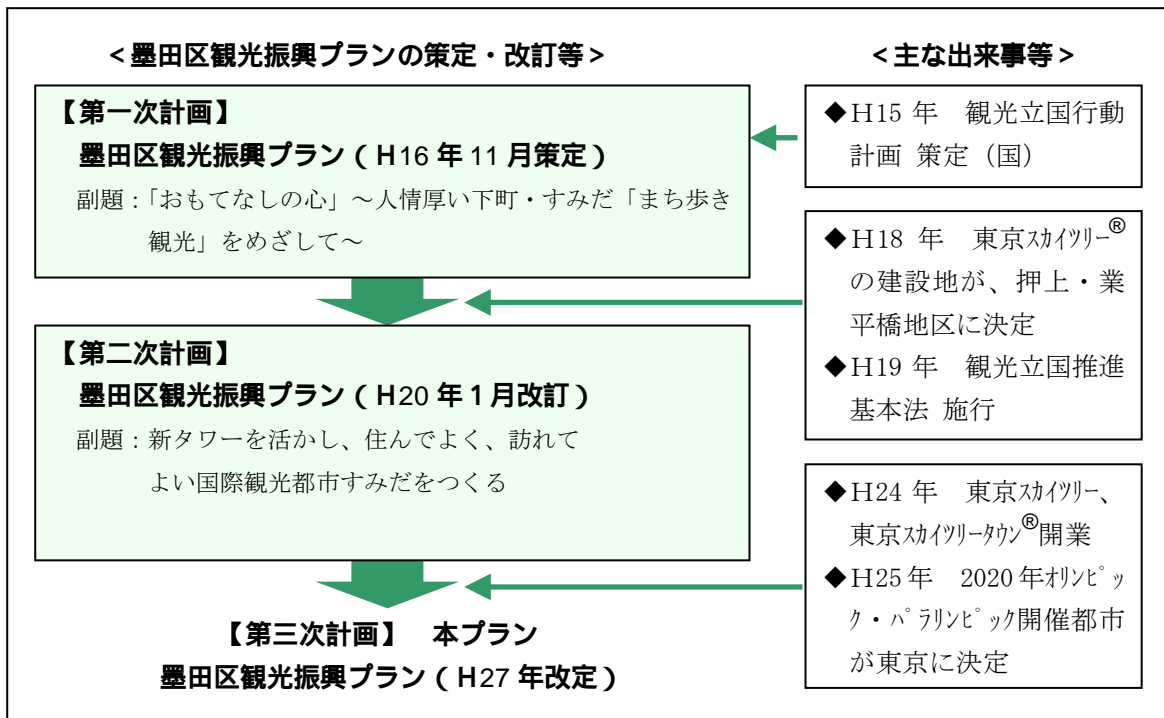
(1) 観光振興プランの策定・改訂の状況

墨田区では、観光振興の基本的な方向性を示すものとして「墨田区観光振興プラン」を平成16年11月にはじめて策定しました（第一次計画）。このプランは「おもてなしの心」の醸成と「まち歩き観光」の推進を基本としており、これによって、現在も観光振興の重要な柱となっている「まち歩き観光」への名乗りをあげたと言えます。

その後、平成18年に東京スカイツリー®（新タワー）の建設地が押上・業平橋地区に決定したこと、平成19年の観光立国推進基本法の施行によって観光立国が国家戦略として位置付けられたことなどを受け、「まち歩き観光」を継続・発展しつつ、「新タワー」を活かすこと、「国際観光都市」をめざすことを基本とする「墨田区観光振興プラン」の改訂を平成20年1月に行いました（第二次計画）。



墨田区観光振興プラン（第二次計画）



「墨田区観光振興プラン」の策定・改訂等の流れ

(2) 観光振興プランに基づく取組み状況

平成20年1月に改訂された「墨田区観光振興プラン（第二次計画）」の主なポイントは、「まち歩き観光の更なる推進」「東京スカイツリーを起爆剤とした観光振興（集客力を活かす）」「国際観光都市づくりの推進（外国人観光客への対応）」「8つの観光拠点エリアの形成」「観光振興の推進体制の強化」です。

< まち歩き観光の更なる推進 >

「まち歩き観光」については、まち歩きガイドツアーの参加者が近年飛躍的に増加するなど大きな成果を上げており、まち歩きのための案内処の設置、トイレや公共サインの整備といったハード整備、まち歩きコースの設定やまち歩きイベントの開催といったソフト事業の実施が実を結んでいます。



まち歩きガイドツアーの様子

< 東京スカイツリーを起爆剤とした観光振興 >

「東京スカイツリーを起爆剤とした観光振興」に関しては、墨田区の観光、産業、歴史、文化の発信拠点として東京スカイツリータウン®に「産業観光プラザ すみだ

まち処」を開設したほか、東京スカイツリーの開業を契機とした区内循環バスの運行開始や、東京スカイツリーにおける観光プロモーション、区内回遊促進イベントの実施、道路や水辺の環境整備など、ハード・ソフトの両面から様々な取り組みを実施してきました。こうした取り組みの結果、区内回遊の促進などにおいて一定の効果・成果は見られるものの、東京スカイツリーの集客力を区内全域に波及させるには至っておらず、発展途上段階にあるといえます。



東京スカイツリー®

< 国際観光都市づくりの推進 >

「国際観光都市づくりの推進」に関しては、公共サインの多言語化、外国人対応が可能な案内所の開設など、外国人が墨田区内で安心して観光を楽しめるための取り組みを進めてきており、外国人観光客の本格的な誘致のための環境が整いつつあります。

< 8つの観光拠点エリアの形成 >

平成 20 年 1 月に改訂した「墨田区観光振興プラン（第二次計画）」では、観光都市づくりを進める対象として、主要な観光拠点を中心に一定の広がりをもった観光拠点エリアを 8 つ定めています。これまでの観光振興の取り組みは、この観光拠点エリアごとにそれぞれの特徴を踏まえて定められた「観光都市づくりのコンセプト」を踏まえて進めてきました。（次頁図参照）

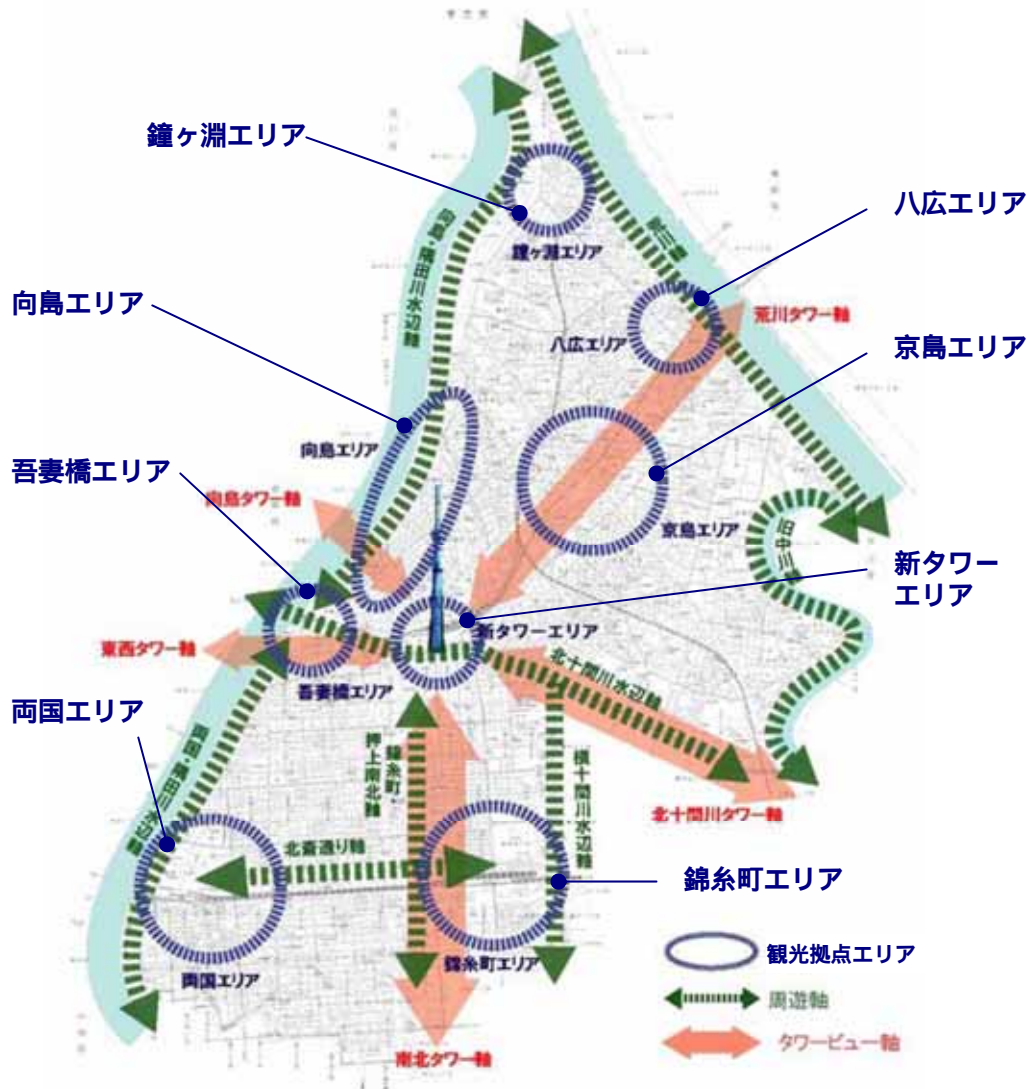
これら 8 つの観光拠点エリアは、墨田区全体を幅広く網羅するように設定していますが、エリア内に立地する観光資源の密度や観光地としての素地はエリアによっては大きな差があるため、観光振興の取り組み度合はエリアによって様々です。

< 観光振興の推進体制の強化 >

「観光振興の推進体制の強化」については、観光振興の中核的牽引役としての機能を強化すべく従前の墨田区文化観光協会の法人化が行われ、平成 21 年 5 月に一般社団法人墨田区観光協会（以下、墨田区観光協会）が設立されました。

「墨田区観光振興プラン（第二次計画）」（平成 20 年 1 月改訂）に定められた
「観光拠点エリア」と「観光都市づくりのコンセプト」

- 両国エリア** : 江戸以来の伝統文化を世界に発信するまち
- 錦糸町エリア** : 音楽、ショッピングモール、エスニックフードなど、多彩な文化に出会えるターミナルのまち
- 新タワーエリア** : 都市文化が創成され国内外から訪れる人々が交流するまち
- 吾妻橋エリア** : 浅草から区内各所へのゲートウェイ、水陸交通の結節するまち
- 向島エリア** : タワーと隣接し、江戸から昭和の風情を体感できるまち
- 京島エリア** : 昭和レトロの下町路地空間を随所楽しめる散策のまち
- 鐘ヶ淵エリア** : 梅若伝説に出会え、都市防災が体感できるまち
- 八広エリア** : 川辺の自然の風を満喫できるまち



図版出典：「墨田区観光振興プラン（第二次計画）」（平成 20 年 1 月改訂）

3. すみだ観光のこれから ~今後の観光振興に求められていること~

「墨田区観光振興プラン（第二次計画）」に基づく様々な観光振興の取組みによって、墨田区は国際観光都市としての第一歩を踏み出したといえます。

今後の観光振興にあたっては、これまでの方針を継承しつつ、東日本大震災の発生や2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定といった社会動向の変化を踏まえ、以下の4点に特に留意しつつ取組んでいくことが重要です。

「選択と集中」の考え方に基づく、観光振興の戦略的展開（エリアとテーマの戦略的な絞込み）

墨田区における観光振興は、東京スカイツリーの開業を契機とした様々な取組みによって一定の成果を上げており、国際観光都市の実現に向けた第一ステップは既にクリアしているといえます。

今後の更なる観光振興にあたっては、これまでの方針や取組みを継承しつつ、「選択と集中」の考え方に基づいて重点的、先導的に取組むべき事項を見極め、戦略的・集中的に事業を展開していくことが求められていると考えられます。

より具体的には、これまでの墨田区の観光振興は8つの「観光拠点エリア」に代表されるように、エリアの地域的バランスを重視して、全域的に観光振興の底上げを図ってきましたが、今後は2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据え、観光振興を特に推進していくべきエリアを戦略的に絞り込んでいくことが重要です。また観光振興のテーマについても同様であり、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて特に重点的な魅力向上を図るべきテーマを見定め、これらに関わる取組みを全区的に推進していくことが有効です。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた国際観光の強化

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会は、国内外から多くの注目を集める一大イベントであり、墨田区にとっては、国際観光都市の実現に向けた更なる一歩を踏み出す絶好の機会です。

今後の観光振興にあたっては、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据え、国際観光の強化を図ることが重要です。その際、単に海外からの観光客を増やすだけでなく、外国人観光客の誘致を通じて国際交流を促進し、本当の意味での国際観光都市の実現をめざすという視点が重要です。

安全・安心な観光地づくりの推進

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東日本地域の観光面にも大きな

影響を及ぼしており、墨田区においても平成 23 年度の主要施設の観光入込客数が減少するなどの影響を受けました。

また、東日本大震災以降、一般市民の安全・安心への関心・意識の高まりは、観光分野にも及んでおり、今後の観光地運営においては、災害時における観光客の安全・安心の確保に特に力を入れる必要があります。

編集による地域資源の磨き上げと新たなプログラムの創出

墨田区には、隅田川や北十間川などに代表される豊かな水辺をはじめ、大相撲や墨堤の桜、向島花街などといった江戸文化や、ものづくり、商業、すみだならではの食など、様々な魅力的な観光資源があります。また、これまでも、こうした観光的魅力を有する地域資源を活用して、観光振興の取り組みを行ってきました。

今後の観光振興においては、墨田区ならではの魅力や資源を活かしつつ、新たな視点でこれらの魅力や資源を編集することで、地域資源を更に磨き上げていくとともに、新たな観光的魅力、プログラムを作り出していくことが重要です。また、同じ資源であっても、ターゲットに応じた観光プロモーションやプログラムづくりを工夫することで、より多くの人々が墨田区の魅力を体験できるようにすることも重要です。

観光に関する人材育成と一元的窓口機能の強化

墨田区では、平成 21 年 5 月に墨田区観光協会の法人化を図り、観光振興の中核となる組織の機能強化を図るとともに、認定ガイド制度の導入や、観光ガイドの養成など、観光振興に関わる人材育成にも努めてきました。しかしながら、外国人観光客にも対応可能な人材の育成や、観光情報の集約化・一元的発信といった点については必ずしも十分な体制が整っているとは言えません。

2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた今後の観光振興においては、外国人への“おもてなし”を担う人材の育成を広く区民の皆様の力も借りながら進めていくとともに、外国人にとっても分かりやすい観光の一元的窓口の機能強化が求められています。

第2章 目標とする観光のすがた

1. 計画の目標

平成 24 年 5 月に東京スカイツリーを含む日本有数の観光拠点・東京スカイツリータウンが開業し、年間 4000 万人超の観光客が訪れています。

また、国が打ち出した「ビジット・ジャパン構想」により、日本を訪れる外国人観光客は年々増え、平成 25(2013)年には訪日外国人観光客数が 1036 万人となり、初めて 1000 万人の大台を突破しました。

国内外から多くの観光客が訪れるまちすみだの発展のためには、観光客がその魅力に触れることができ、また、暮らす人にとっても快適なまちづくりを進める必要があります。

多くの人々がすみだを訪れ、すみだファンを世界中に増やすための国際的な観光都市づくりに向けて、「タワーのある街すみだ」の情報発信力を高め、世界から愛されるすみだを築くために、次の目標を掲げます。



東京スカイツリー®

東京スカイツリー®を活かし、暮らしてよく、訪れてよい、
「国際観光都市すみだ」をつくる

2. 計画期間

このプランは、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催年である、平成32(2020)年度までの6年間の展望する計画です。

墨田区観光振興プラン 平成27～32(2015～2020)年度

前期計画：3年 平成27～29(2015～2017)年度	後期計画：3年 平成30～32(2018～2020)年度
---------------------------------	---------------------------------

近年及び近未来の観光関連年表

平成15年 (2003)	3月 4月 7月	・東京メトロ半蔵門線が押上まで延伸 ・(国) ビジット・ジャパン・キャンペーン開始 ・(＼)「観光立国行動計画」策定
平成16年 (2004)	11月	・「墨田区観光振興プラン」策定
平成18年 (2006)	3月	・「東京スカイツリー」建設地が墨田区に決定
平成19年 (2007)	1月 3月	・(国)「観光立国推進基本法」の施行 ・(都)「東京都観光産業振興プラン」改定
平成20年 (2008)	1月 10月	・「墨田区観光振興プラン・改訂版」策定 ・(国)国土交通省が「観光庁」を開設
平成21年 (2009)	5月	・「一般社団法人墨田区観光協会」の設立
平成24年 (2012)	3月 5月 6月	・墨田区内循環バス運行開始 ・「東京スカイツリー」、「東京スカイツリータウン」開業 ・「産業観光プラザ すみだ まち処」開設 ・(国)観光庁「訪日外国人旅行者の受入環境整備事業」戦略拠点に押上・業平橋地区が選定
平成25年 (2013)	2月 4月 5月 6月 9月 12月	・(国)日本政府観光局(JNTO)の「外国人観光案内所」に区内3ヶ所の観光案内所が認定 ・「おしなり公園船着場」開設 ・(都)「東京都観光産業振興プラン」改定 ・「吾妻橋船着場」開設 ・(国)「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」の策定 ・2020年オリンピック・パラリンピック開催都市が東京に決定 ・東京国体開催 ・平成25年の訪日外国人旅行者数が1,000万人超えを記録(1,036万4千人)
平成26年 (2014)	3月 6月 9月 12月	・「郵政博物館」開館 ・(国)「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」の策定 ・東京スカイツリータウンの来場者数の累計が1億人を突破 ・(都)「東京都長期ビジョン」「外国人旅行者の受入環境整備方針」策定
平成27年 (2015)	4月	・「墨田区観光振興プラン・改定版」策定 ・「たばこと塩の博物館」開館
平成28年 (2016)		・「すみだ北斎美術館」開館(予定)
平成29年 (2017)		・「刀剣博物館」開館(予定)
平成32年 (2020)		・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催

3 . 観光振興の基本理念

「国際観光都市すみだ」をつくるための基本理念は以下の3つです。

- (1) ビジターズ・インダストリーの創出
- (2) 愛着と誇りの持てる、わが街すみだづくり
- (3) 総力を挙げて取組む観光まちづくり

観光振興の狙いとするところは、地域経済の活性化と暮らしてよい街、わが街すみだづくりです。そして、これを実現するためには、区民・事業者・行政が総力を挙げて取組むという下図に示す理念からなっています。

(1) ビジターズ・インダストリー(観光の視点を活かした幅広い産業群)の創出

観光客が地域を観光すると、地域内で様々な消費活動を行います。また、観光客に対して地域内で多様なサービス提供活動が起こり、地域経済が活性化します。こうした経済活動は、観光客を対象とする分野の事業が新たに生み出されることによって地域経済の活性化が促されることから、「ビジターズ・インダストリー」(観光の視点を活かした幅広い産業群)と位置づけることができます。

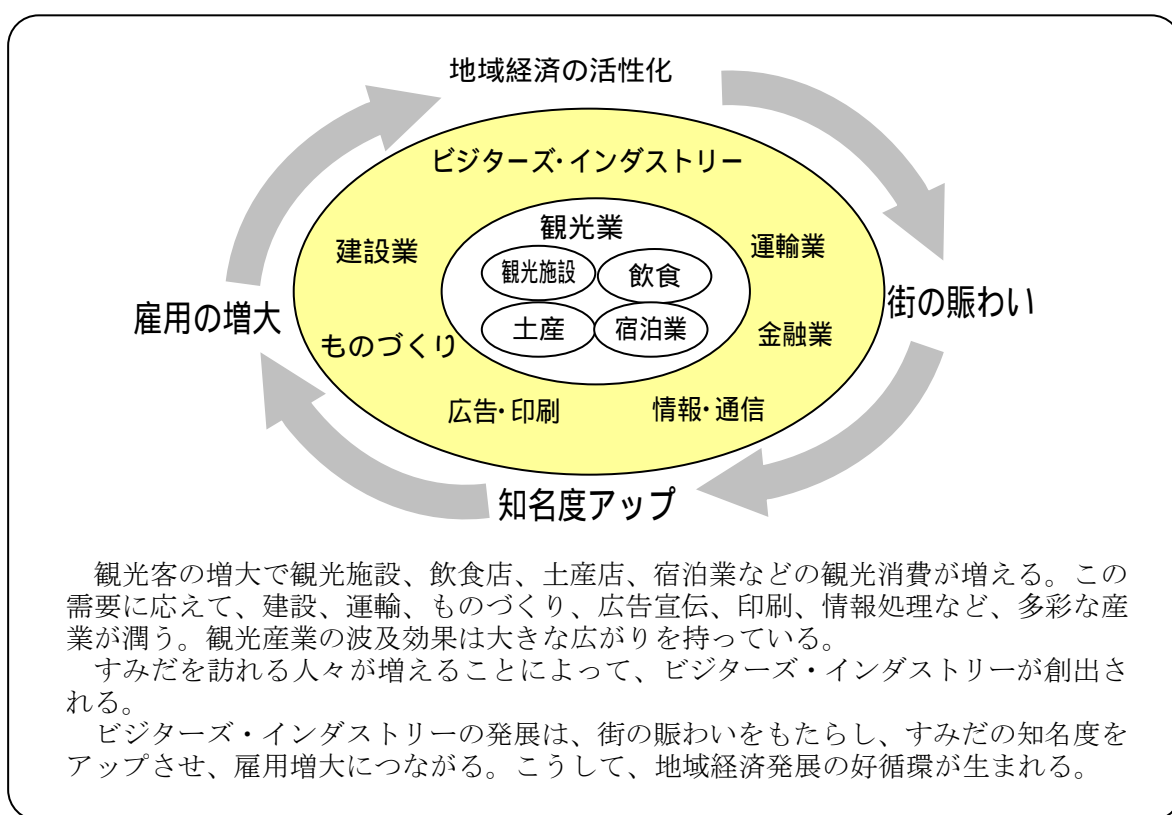
ビジターズ・インダストリーは、飲食、宿泊、買い物といった観光関連産業に始まり、移動に伴う運輸関連業、土産品などの製造分野の活動、観光客誘致やイベント開催などに伴う印刷物・ホームページ作成などのPR関連事業といった幅広い分野の事業活動によって引き起こされる裾野の広い産業です。これが観光を都市活性化の施策として取り入れる大きな要因です。

墨田区の場合、東京スカイツリー・東京スカイツリータウンの開業による観光客の増加と、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催は、区内事業者が観光と自らの事業との接点を見出し、多大な収益を生み出す大きなチャンスといえます。

例を挙げれば、江戸ゆかりの資源やちゃんこ料理など「すみだ」ならではの資源を活かした新しい観光イベントや観光ツアー商品を開発することによって、直接関連する施設・飲食店の増収はもちろん、テーマにちなんだ土産品の開発・製造、当該イベントやツアーの宣伝に伴う印刷・広報関連事業、店や施設の改修に伴う建設関係・資材供給関係事業の機会が拡大するなど、観光客が増えることによる経済波及効果は大きく広がります。

このように区内企業や事業者が、東京スカイツリー・東京スカイツリータウンの開業による観光客の増加と、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催をビジネスチャンスと捉えて地域経済の活性化に取り組むことで、都市の賑わいや活性化が更に増し、それが更なる観光客増を招くという好循環の形成が期待されます。

墨田区は、「ものづくりのまちすみだ」のこれまでの蓄積を活かしながら、観光客が生み出す多様な需要を地元で確実に受け止め、観光客を地域経済の活性化に多面的に結びつけるための産業関係者に対する啓発・支援、新規ビジネスの起業の促進などを行い、広範なビジターズ・インダストリーの創出をめざします。



(2) 愛着と誇りの持てるわが街すみだづくり

墨田区には、隅田川をはじめとした河川、大相撲、墨堤の桜、優秀なものづくり産業の集積など人々を惹きつける魅力的な観光資源が豊富にあります。これらの資源は区民自身のふるさと意識を育む拠り所であり、墨田区に誇りと愛着を持つ礎となるこれらの資源を大切に、磨き上げることが観光まちづくりの出発点です。

しかし、区内の様々な観光資源は“灯台下暗し”で、区民自身が「いわれ」や価値に気づいていない場合も多く見られます。観光客がそれらの資源に興味を持って

訪ねてくることで、区民が自分の暮らすまちの貴重な資源や魅力について、再発見・再認識する機会ともなっています。

そして、これらの存在を区民自身が十分に認識したうえで、おもてなしの気持ちで観光客に提供することによって、「国の光を観る」という観光本来の姿が実現すると考えられます。

墨田区の観光は、区民の「愛着と誇りの持てるわが街すみだ」意識を土台に、区民と観光客が互いに「Win-Win」の関係となる都市づくりをめざします。



区民祝賀イベントにおける神輿パレードの様子
(平成 24 年 5 月)

(3) 総力を挙げて取組む観光まちづくり

観光振興は、区民・事業者・NPOなどの民間人や団体が、日常的な観光の担い手となって、区の魅力を観光客に味わってもらうための様々な知恵を生み出し、努力を積み重ね、その相乗効果によってまちの魅力が高まり、更なる賑わいや活力が生まれる活動です。

一方、行政は、民間の活動が互いに連携し効果を上げるように、基盤整備や情報支援の役割を担い、行政内のハード系部門・ソフト系部門が緊密に連携することで民間の活動が円滑に進むように下支えを行うことが求められます。

墨田区の観光まちづくりは、東京スカイツリー・東京スカイツリータウンの開業による観光客の増加と、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を好機として、民間と行政が協働の理念を活かしながるとともに協力し、総力を挙げて「国際観光都市すみだ」をつくるという共通の目標に向かって進みます。



「産業観光プラザ すみだ まち処」における春節を意識したディスプレイ



東京スカイツリー®を訪れる外国人観光客

4 . 観光都市づくりの視点

国際観光都市をつくるための視点は、次の3つです。

- (1) 国際観光 ~ グローカルな視点で未来を拓く ~
- (2) まち歩き観光 ~ 時速 1.5 キロのまちづくり ~
- (3) こだわり観光 ~ 多様化する観光ニーズへの対応 ~

(1) 国際観光 ~ グローカルな視点で未来を拓く ~

グローカルとは、グローバル（地球的な視野）とローカル（地域に根ざす姿勢）を併せ持つことを示す合成語で、「地球規模で考えながら、自らの地域で活動する（Think globally, act locally）」と関連して使われる言葉です。

観光は、まさにグローカル産業といってよく、グローバルな視点とローカルな特色を大事にした観光地づくりが要求されます。

国際観光都市では、外国人観光客に対応するために施設・パンフレットなどの英語表記が世界標準としての基本となりますが、一層の増加が予想されるアジア諸国からの観光客のために、中国語やハングルの記述も必要となります。

また、グローバリズムが喚起した「その地域らしさへ」を求める観光客の関心に応えるために、すみだにしかない、すみだらしい多様な観光資源を掘り起こし、ローカルすみだを堪能できる観光商品として提供することが必要です。

2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催が決定し、今後はますます訪日外国人観光客の増加が見込まれます。多くの外国人観光客に墨田区を訪れてもらい、その魅力に触れてもらうために、関心・ニーズ・使い勝手などに十分配慮し、外国人観光客を惹きつける「国際観光都市すみだ」をめざします。



外国人のものづくり体験 (KAMISM Lab.)

(2) まち歩き観光 ～時速 1.5 キロのまちづくり～

高齢化の進展や文化的欲求の高まりによって、観光の趣向も成熟化しています。観光バスで慌しく短時間で観光地を巡るのではなく、ゆっくりと歩きながら地域の魅力を味わう「まち歩き観光」が都市型観光のスタイルとなってきています。

また、自分の足で歩く、あるいは自転車などを利用するゆっくり型の観光は、環境に配慮した持続可能な観光でもあります。海外からの観光客の志向も、団体旅行は減少傾向にある一方で、個人・小グループ型の観光が多くなっており、地域とじっくりと触れ合う「まち歩き観光」が主流となりつつあります。

東京は地方都市と比べ歩行可能な狭小なエリアに史跡や寺社仏閣などの観光資源が豊かに満ちており、墨田区もその典型です。これまでにやってきた、まち歩き観光の基礎的インフラである歩行者空間の整備や、河川を活かした水上交通の運航（観光舟運）などの取組みをベースに、観光客がゆっくりと地域を巡ることができ環境の充実を、ハード・ソフトの両面から進めていきます。

(3) こだわり観光 ～多様化する観光ニーズへの対応～

観光に対して、各人がそれぞれの個性的な関心（こだわり）を示す傾向がますます顕著になっています。そのため、観光客の観光行動やニーズを一律に扱うことは難しくなっています。

若者と熟年、男性と女性、日本人と外国人ではそれぞれ関心を示すテーマや事物が異なります。また、同じ年代であっても、アウトドア派とインドア派では、訪ねたいスポットは全く違います。

また、団体観光がもたらす賑わいは、一過性で持続力が弱い傾向があります。一過性の観光振興に終わることなく、リピーターが多く、持続性があり、各人の趣向やニーズに対応できる観光戦略が求められている由縁です。平成 25 年度からは「すみだまち歩き博覧会」を展開しており、四季を通じて楽しめる 24 のまち歩きコースを発表して、まち歩きガイドツアーの実施回数、参加者数が大幅に増加するなど、近年着実に成果を上げつつあります。こうした取組みの成果からも、こだわりのテーマに高い関心を示す観光ニーズが多様化している様相が読み取れます。

そこで墨田区は、隣接する浅草など主要な観光拠点の吸引力を最大限に活かしつつ、今後の観光の主流となる観光客の個人的関心事（＝こだわり）が生み出す新しい観光需要に対応できるプログラムを提供する「こだわり観光」を推進します。

また、観光の担い手や組織体制においても、区内の個性的な活動グループや企業などによる自主的で個性豊かな発想や行動を発掘、支援しつつ、新しい担い手の輩出を促進します。

5 . 観光振興の課題

(1) 墨田区の多様な観光拠点・資源の魅力を伝える必要がある

平成 20 年の観光振興プラン改訂以降、墨田区内においては、様々な観光資源が発掘され、それらを活用した観光振興に関わる取組み（すみだまち歩き博覧会、地域イベントなどとの連携 など）が行われてきました。また、東京スカイツリータウン・ソラマチ内にある「産業観光プラザ すみだ まち処」をはじめ、墨田区の観光情報を発信する拠点の整備も進んでいます。

しかしながら、東京スカイツリーや国技館など、施設単位で認知度が高い観光スポットはあるものの、史跡や寺社仏閣、庭園などの歴史・文化的施設や、墨田区の産業・ものづくりの技術について知ることができる小さな博物館、賑わいのある商店街など、墨田区ならではの魅力的な資源の認知度は高いとはいえない状況です。

したがって、今後は墨田区の魅力的な観光資源及びそれを発信する観光拠点の存在について、広く国内外にPRしていく観光プロモーションを展開し、墨田区の観光振興を図っていくことが重要です。

(2) 観光拠点・資源間の回遊性を高める必要がある

墨田区には多くの魅力的な観光資源が存在します。観光振興を進めていくための土台として多くの観光資源が発掘され、それを魅力的なものにするために資源の磨き上げが行われてきました。

個別の観光スポット・資源の質を高める取組みが進む一方で、現状では東京スカイツリーや国技館など、全国的に認知度の高いスポットに訪れた観光客の多くが各施設とその周辺で観光行動を完結させてしまう傾向があり、その集客効果を区全体の観光振興に必ずしも十分には活かしきれていません。

このため、今後の観光振興にあたっては、墨田区内に点在する観光拠点・資源について、「すみだまち歩き博覧会」で設定したルートなどを基礎として、観光客がまちを巡りたくなるような環境を整え、観光拠点・資源間の回遊性を高める必要があります。これによって、墨田区がめざす「まち歩き観光」を実現していきます。

(3) 多様な観光資源がもつ魅力の磨き上げ・再編集が必要である

墨田区にはまだ、魅力的な観光資源へと成長する可能性のあるものが多く存在しています。例えば、区内の至るところにある水辺空間は墨田区ならではの風景として、憩いと賑わいの場となる可能性があり、また水辺を活用した舟運は工夫次第で他にはない魅力的な移動手段となりえます。

更に、近年注目されている北斎・江戸文化に関わる取組み・事業は、墨田区観光の1つの核になる可能性を秘めています。このほか、墨田区の特徴であるものづくり産業は、観光とコラボレーションすることで、地域の産業の発展と観光振興を両立させるポテンシャルを持っており、既にその魅力の萌芽が伺えます。

こうした観光資源は、墨田区だけに留まることなく、葛飾北斎に縁のある地域やものづくり産業が活発な地域、近接する自治体、あるいは関係する企業・団体と広域連携を図ることで、更に観光の魅力の向上を図ることができます。

多様な観光資源が存在する墨田区においては、これらに磨きをかけ、多くの観光ニーズに応える「こだわり観光」の実現が求められていると考えられます。

(4) 観光客が容易に情報を取得できる情報インフラの整備が必要である

墨田区の観光情報を発信するために、墨田区の公式ホームページや墨田区観光協会の公式ホームページなどのインターネットの活用や、各種パンフレット・冊子の作成・配布などを行ってきました。また、墨田区の観光情報を掲載した案内サインを設置するなど、現地で観光客を誘導するためのインフラ整備も行っています。

近年は、情報発信・取得の方法は以前にも増して多様化しており、SNS*などの新たな情報発信媒体の活用が求められています。

また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を控えており、今後は外国人観光客の増加が見込まれます。墨田区内の各種観光施設においては、多言語に対応した案内が十分になされているとはいえ、多言語表記や各種外国語対応スタッフ、翻訳システムの導入など、言語のバリアフリー化を図る必要があります。

更に、区内のWi-Fi環境の整備を行い、外国人観光客をはじめ、誰もがどこでも快適にインターネット上の情報を入手できる環境を整備することが求められています。

※SNS (Social Networking Service) とは、ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称で、一般的にはインターネット上で様々な人が交流するためのコミュニティ型の Web サイトを指します。

(5) 地域の観光を支える担い手・サポーターの更なる育成が必要である

平成 20 年に改訂した観光振興プランでは、墨田区の観光振興を進める上での担い手を育て、機能強化を図ることを目的に、墨田区文化観光協会の法人化が必要であると定めていました。これに基づき、平成 21 年には同協会が法人化し、一般社団法人墨田区観光協会として生まれ変わりました。その後は、観光資源の発掘や魅力の向上、情報発信など、様々な観光振興に関わる取り組みを行ってきました。

2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を控え、今後は東京圏を訪れる観光客は増加することが予測されます。それに向けて墨田区の観光を盛り上げていくためには、観光協会だけではなく地域全体でそれを支えていくことが求められます。また、2020 年以降も墨田区の観光産業が発展していくためには、地域全体の観光力を確固たるものにする必要があります。

そのためには、観光の担い手・組織を墨田区内で広げていくことが求められます。

(6) 観光客に対する災害時対応の体制を整える必要がある

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、震源から遠く離れた東京においても、大量の帰宅困難者が発生するといった被害が生じました。この災害以降、各地で防災対策に対する関心が高まっています。

東京都は平成 25 年 4 月に帰宅困難者対策条例を施行し、都民の取り組みや事業者の取り組みを示しました。墨田区においては、墨田区地域防災計画（平成 26 年度修正）に帰宅困難者対策を示しているほか、災害対策本部での対応など、その取り組みを強化してきました。

しかし、今後、墨田区を訪れる観光客がますます増加していくことを考えると、これまで以上に帰宅困難者の対策を講じていくことが求められます。

仮に、災害が発生した場合、被災した観光客に「大変な目にあったけれど、墨田区での対応が素晴らしかった。無事に帰ることができた。墨田区は安全・安心な観光地で、また、訪れてみたい。」と思ってもらえるような対応が取れることが、観光産業の早期回復及び更なる発展につながると考えられます。観光客に安心して墨田区へ訪れていただくために、平時から、事業者や関係機関と連携を図り、事前の対策を強化していく必要があります。

墨田区観光振興プラン 全体構成

第1章 計画改定の背景

- 1 近年の観光振興の全国的動向
- 2 すみだ観光のこれまで ~これまでの取り組み~
- 3 すみだ観光のこれから ~今後の観光振興に求められていること~

第2章 目標とする観光のすがた

1 計画の目標

東京スカイツリー®を活かし、暮らしてよく、訪れてよい、「国際観光都市すみだ」をつくる

2 計画期間

平成 27 ~ 32 (2015 ~ 2020) 年度
前期 3 年 (H27 ~ H29) + 後期 3 年 (H30 ~ H32)

3 観光振興の基本理念

- (1) ビジターズ・インダストリー (観光の視点を活かした幅広い産業群) の創出
- (2) 愛着と誇りの持てるわが街すみだづくり
- (3) 総力を挙げて取組む観光まちづくり

4 観光都市づくりの視点

- (1) 国際観光 ~ グローカルな視点で未来を拓く ~
- (2) まち歩き観光 ~ 時速 1.5 キロのまちづくり ~
- (3) こだわり観光 ~ 多様化する観光ニーズへの対応 ~

5 観光振興の課題

- (1) 墨田区の多様な観光拠点・資源の魅力伝える必要がある
- (2) 観光拠点・資源間の回遊性を高める必要がある
- (3) 多様な観光資源がもつ魅力の磨き上げ・再編集が必要である
- (4) 観光客が容易に情報を取得できる情報インフラの整備が必要である
- (5) 地域の観光を支える担い手・サポーターの更なる育成が必要である
- (6) 観光客に対する災害時対応の体制を整える必要がある

第3章 基本戦略

戦略 : 観光プロモーションの充実

戦略 : 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集

戦略 : 産業と観光の融合

戦略 : 水都すみだの再生

戦略 : 観光振興を支える基盤の充実

国際観光都市すみだ

第4章 基本施策

< 戦略 : 観光プロモーションの充実 >

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けた観光プロモーション
- 他地域との広域連携による情報発信
- 多様化する情報発信媒体の活用
- すみだならではの魅力の発掘・再編集
- イベント情報の一元管理と情報発信
- MICEの誘致

< 戦略 : 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集 >

- すみだ文化ゾーンの創出
- 世界的な芸術家・北斎に着目した観光的魅力の向上
- 「両国観光まちづくりグランドデザイン」の推進
- 江戸文化を活用した観光プログラムの充実
- 江戸情緒を醸し出す景観の創出

< 戦略 : 産業と観光の融合 >

- 3M運動等と連動した“ものづくり観光”の推進
- “ものづくり”のブランド力を活かした新たな誘客
- すみだならではの食を活用した“まち歩き観光”の推進
- 商店街・商業施設と連携した観光プログラムの充実

< 戦略 : 水都すみだの再生 >

- 水辺空間を活用した賑わいの創出
- 舟運を活用した回遊性向上と新たな魅力づくり
- 広域連携による観光舟運の活性化

< 戦略 : 観光振興を支える基盤の充実 >

- 安全・安心な観光地づくり
- 次世代の観光まちづくりの担い手の育成
- 観光客の受入れ体制の強化
- 国際交流の推進
- 公共空間を活用した賑わいの創出
- 快適に回遊できる美しい都市環境の充実
- 主要観光ルートの賑わい創出と魅力の向上
- 回遊性向上のための交通インフラの充実
- 情報インフラの充実
- すみだ観光の品質管理

第5章 リーディングプロジェクト

3つの戦略拠点を核とした観光振興の推進と広域連携強化

「お・も・て・な・し」の展開 ~国際観光都市をめざして~

都市トランジット観光の推進 ~移動すること自体が楽しい観光地づくり~

第6章 実現化の仕組み

- 1 「すみだ観光力」の向上と「すみだモデル」の構築
- 2 担い手の役割と人材育成
- 3 観光振興に向けた様々な連携(産業間連携、世代間連携、地域間連携、国・都との連携強化等)
- 4 観光振興のためのプラットフォームづくり

第3章 基本戦略

本プランでは、下記に示す5つの戦略に基づいた観光施策・事業を進めていくことで、墨田区の更なる観光振興を図り、「国際観光都市すみだ」の実現をめざします。

多くの人々に墨田区の魅力を知ってもらう「観光プロモーションの充実」

墨田区ではこれまで、区内の様々な観光資源の発掘・磨き上げを行い、観光振興を図ってきましたが、「第2章 5. 観光振興の課題」で示したように、墨田区ならではの魅力的な観光資源に対する世間の認知度は高いとはいえない状況です。今後の観光振興にあたっては、より多くの人々に墨田区の魅力を知ってもらうことが重要です。

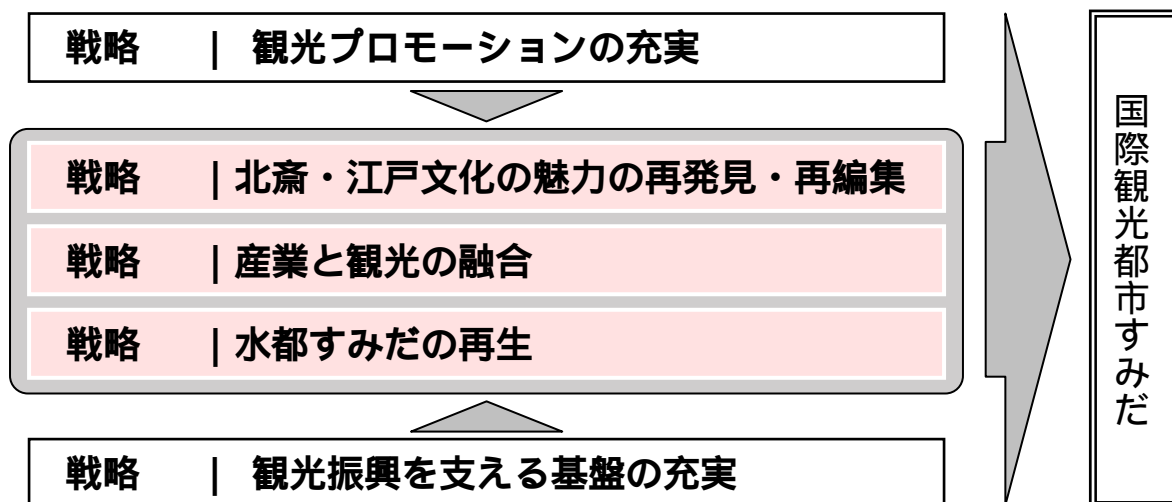
そこで、これまでの取組みによって得たノウハウを活かし、＜観光プロモーションの充実＞を基本戦略のひとつとします。

墨田区ならではの3つの魅力「北斎・江戸文化」「すみだの産業」「水都すみだ」

「第1章 3. すみだ観光のこれから」で示したように、今後の観光振興にあたっては、「選択と集中」の考え方にに基づき、観光振興を戦略的に展開していくことが求められます。そこで、墨田区の数ある観光資源の中でも特に特徴的な3つのテーマ「北斎・江戸文化」「すみだの産業」「水都すみだ（水辺、舟運など）」について重点的に取組み、すみだ観光の魅力をより高めていくこととします。これらのテーマに合わせて、＜北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集＞＜産業と観光の融合＞＜水都すみだの再生＞の3つを基本戦略にすえます。

観光振興を支える「基盤の充実」

更に、これらの観光振興に関わる取組みを効率的・効果的に進めるためには、ソフト・ハード両面で基盤を整えることが不可欠です。そこで、他の基本戦略を下支えする基本戦略として、＜観光振興を支える基盤の充実＞をすえることとします。



戦略 | 観光プロモーションの充実

墨田区では、平成 20 年の墨田区観光振興プランの改訂以降、区内観光資源の活用や近隣区・関係団体との連携により、観光プロモーションを進めてきました。平成 24 年 5 月の東京スカイツリー開業以降、墨田区を訪れる観光客は大きく増加したものの、墨田区内に点在する観光関連施設の利用者の増加や様々な観光資源の認知度の向上にまでは、必ずしも至っていません。

そこで、東京スカイツリー以外の観光施設や観光資源の認知度を向上させ、多くの観光客に区内を回遊してもらうため、これまで培ってきた観光プロモーションの基礎を活用しながら、更なる観光プロモーションの充実を図ります。

また、すみだの産業・歴史・文化に関わる観光資源を基礎とし、これらの更なる魅力向上や資源の再編集により、年代や目的ごとに対応した“こだわり観光”を推進するための魅力的な観光プログラムを創出・提供していきます。

更に、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定や近年の外国人観光客の増加など観光面における追い風を逃さないためにも、海外に向けた情報発信の強化や外国人観光客の受入れ体制の構築などを積極的に推進し、外国人観光客の誘客を促進します。

加えて、行政の垣根を取り払い、近隣区や地方の自治体などとの広域連携による観光プロモーションや国・東京都、民間事業者などとも連携した観光プロモーションを展開し、国内外からの観光客を増加させていきます。



これまでの観光プロモーション実施の様子

《 戦略 に基づいて進める施策 》

- 施策 I - ① 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けた観光プロモーション
- 施策 I - ② 他地域との広域連携による情報発信
- 施策 I - ③ 多様化する情報発信媒体の活用
- 施策 I - ④ すみだならではの魅力の発掘・再編集
- 施策 I - ⑤ イベント情報の一元管理と情報発信
- 施策 I - ⑥ MICE の誘致

戦略 | 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集

墨田区は、江戸時代の文化を今でも色濃く感じられる地域特性があり、江戸を代表する世界的な芸術家・葛飾北斎の生誕地でもあります。北斎は、その生涯のほとんどを墨田区で過ごしたことから、墨田区では、郷土の偉人北斎を顕彰するとともに、地域の産業や観光へも寄与する地域活性化の拠点として、すみだ北斎美術館の整備を進めています。

また、墨田区は、江戸時代の明暦の大火後の本所開拓時に開発され、大火の犠牲者を供養した回向院もその時に創建されました。その回向院境内で行われた勧進相撲が現在の大相撲の発祥といわれています。更に、徳川吉宗が整備し江戸庶民に愛されてきた墨堤の桜や大飢饉や疫病による死者の供養と厄除けを祈願するために始まった隅田川の花火など、江戸時代から続く文化を随所で感じることができます。このほか、向島花街や両国周辺にも、いまだに江戸文化の趣を残す場所や文化を感じられる場所などが数多く存在していることなどから、墨田区の観光振興を図る上で、江戸文化は重要なキーワードとなります。

こうした墨田区の地域特性を踏まえ、今後の観光振興においても、北斎をはじめ、江戸時代から残る文化や観光資源（大相撲、墨堤の桜、隅田川の花火、向島花街、隅田川七福神、向島百花園など）などを活用し、これらの資源の更なる磨き上げや連携などを通じて、観光的魅力の向上や観光プログラムの充実を図ることにより、江戸をキーワードにした“こだわり観光”を推進します。更に、江戸東京博物館やたばこと塩の博物館（平成 27 年 4 月 25 日開館）、すみだ北斎美術館（平成 28 年度開館予定）、刀剣博物館（平成 29 年度開館予定）など、区内の博物館・美術館・資料館など文化施設と連携した観光プログラムを創出・提供するなど、これらの施設を核にしたすみだ文化ゾーンの創出を図ります。

このほか、平成 25 年 7 月に策定した「両国観光まちづくりグランドデザイン」に基づき、今なお、江戸の文化が薫る両国の観光資源を掘り起こし磨き上げ、両国の魅力を発信していくことで、墨田区全体の更なる魅力の向上につなげていきます。



すみだ北斎美術館（イメージ図）



向島百花園



向島花街の芸妓衆

《 戦略 に基づいて進める施策 》

- 施策Ⅱ－① すみだ文化ゾーンの創出
- 施策Ⅱ－② 世界的な芸術家・北斎に着目した観光的魅力の向上
- 施策Ⅱ－③ 「両国観光まちづくりグランドデザイン」の推進
- 施策Ⅱ－④ 江戸文化を活用した観光プログラムの充実
- 施策Ⅱ－⑤ 江戸情緒を醸し出す景観の創出

戦略 | 産業と観光の融合

墨田区は、江戸時代から瓦や鋳鉄加工・材木商などの地場産業が発達し、江戸市中への物資の供給拠点として“ものづくり”が発達してきました。明治維新以降も江戸時代から蓄積された技術や技能を活かし、いち早く工業化が図られ、メリヤスや縫製、時計、皮革、玩具などの産業を中心に発達していきました。しかし、戦後、区内にあった大工場は産業立地政策などにより、次々と郊外へ移転し、中小零細工場は、経営者の高齢化などにより廃業を余儀なくされ、減り続けており、“ものづくり”産業の活性化が本区の課題となっています。

こうした背景のもと、本区では産業活性化策の一環として、東京スカイツリーの建設決定を契機に伝統工芸品や日用品などの“ものづくり”とすみだならではの“食”などを産業として一括りにし、産業も歴史や文化と同様に重要な観光資源として位置づけ、観光振興に取り組んできました。平成24年5月には、東京スカイツリータウン内に「産業観光プラザ すみだ まち処」を開設し、すみだの産業と観光、歴史、文化、食などに関する情報発信を積極的に展開しています。

今後の観光振興においても、本区の特徴を活かした「すみだ3M（スリーエム）運動」や「すみだ地域ブランド戦略」と連動した“ものづくり観光”を更に推進させるとともに、すみだならではの“食”を活用した“まち歩き観光”の推進、商店街・商業施設などと連携した観光プログラムの充実などにより、ビジターズ・インダストリーの創出をめざした産業と観光を融合させた観光振興を展開します。それにより、観光振興を通じて、産業振興も図ることができ、地域の活性化へと結びつけるプラスの連鎖・循環を促していくことをめざします。



ものづくり体験の様子



キラキラ橋商店街

《 戦略 に基づいて進める施策 》

- 施策Ⅲ-① 3M運動等と連動した“ものづくり観光”の推進
- 施策Ⅲ-② “ものづくり”のブランド力を活かした新たな誘客
- 施策Ⅲ-③ すみだならではの食を活用した“まち歩き観光”の推進
- 施策Ⅲ-④ 商店街・商業施設と連携した観光プログラムの充実

戦略 | 水都すみだの再生

かつて、江戸随一の「水の都」と呼ばれた墨田区は、隅田川や荒川のほか、江戸時代に開削された北十間川や横十間川などの江東内部河川が縦横に流れ、豊かな水辺環境に恵まれています。

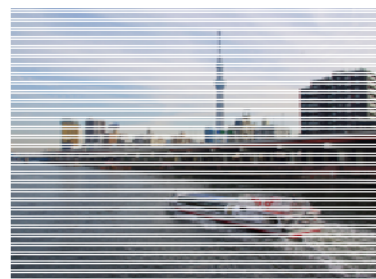
墨田区では、平成 24 年 5 月の東京スカイツリー開業を契機とし、このような豊かな水辺環境を活かした水辺空間の整備を進めており、これまで防災船着場としての位置付けであった吾妻橋船着場の一般開放や、東京スカイツリー直下のおしなり公園船着場の新設を行い、観光舟運の利用促進に向けた取組みを実施してきました。

こうした墨田区の特性及び、これまでの取組みを踏まえ、今後の観光振興においても、これまでに整えた観光舟運の仕組みや施設などを基礎に、より一層の観光舟運の活性化を図っていきます。

また、水辺については、リバーサイドカフェの誘致や水陸両用バスも活用できるインフラ整備、北十間川と隅田公園の一体整備による観光回遊路の整備などを行っていくことにより、本区の特徴である豊かな水辺空間と観光舟運を結び付けて、水辺を核とした賑わいの創出を図り、江戸随一の「水の都」と呼ばれた水都すみだの再生をめざしていきます。



東京スカイツリーの開業に合わせて整備された北十間川の水辺空間とおしなり公園船着場



隅田川を行く水上バス

《 戦略 に基づいて進める施策 》

- 施策Ⅳ－① 水辺空間を活用した賑わいの創出
- 施策Ⅳ－② 舟運を活用した回遊性向上と新たな魅力づくり
- 施策Ⅳ－③ 広域連携による観光舟運の活性化

戦略 | 観光振興を支える基盤の充実

平成 20 年の墨田区観光振興プランの改訂以降、区内回遊性の向上を目的とした主要道路の景観整備や多言語に対応した案内サインの設置などのハード面に加えて、墨田区観光協会の法人化や観光ガイドといった観光の担い手となる人材育成などのソフト面の強化によって、「総力を挙げて取組む観光まちづくり」実現のための観光基盤の充実を図ってきました。

今後は、これまでの取組み・事業をベースとして、多様化する観光客のニーズに応えるべく、歩行空間の整備や回遊性向上のための交通インフラの充実、案内サインや Wi-Fi 環境の充実といった情報インフラの拡充、美しい街並み・景観整備、バリアフリーの推進といったハード面での基盤の充実を図っていきます。

また、上記のハード面に加えて、水辺のオープンカフェなど、公共空間を活用した賑わい創出や、観光客の受入れ体制のより一層の強化、地域の観光振興を支える担い手・サポーターの育成などのソフト面の取組みを実施していくことで、戦略 I から IV に基づく観光振興の取組みを効果的に実施・実現させるための基盤を整えます。



観光案内所における Wi-Fi 環境の整備



両国駅広小路の賑わい



タワービュー通り

《 戦略 に基づいて進める施策 》

- 施策 V-① 安全・安心な観光地づくり
- 施策 V-② 次世代の観光まちづくりの担い手の育成
- 施策 V-③ 観光客の受入れ体制の強化
- 施策 V-④ 国際交流の推進
- 施策 V-⑤ 公共空間を活用した賑わいの創出
- 施策 V-⑥ 快適に回遊できる美しい都市環境の充実
- 施策 V-⑦ 主要観光ルートの賑わい創出と魅力の向上
- 施策 V-⑧ 回遊性向上のための交通インフラの充実
- 施策 V-⑨ 情報インフラの充実
- 施策 V-⑩ すみだ観光の品質管理

第4章 基本施策

国際観光都市すみだの実現に向けて、第3章で示した5つの基本戦略に基づく28の基本施策を設定し、これを着実に実行していくこととします。

なお、本プランは、具体的な観光振興事業の行動計画を示すアクションプランではなく、今後のすみだ観光がめざすべき方向性を示した、いわば観光分野の「総合計画」としての性格を持ちます。このため、以降に示す28の基本施策は、これら全てを本プランの計画期間内（平成32年度まで）に、積極的に着手することをめざします。

5つの基本戦略と28の基本施策の体系

戦略	 観光プロモーションの充実
施策	- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けた観光プロモーション
施策	- 他地域との広域連携による情報発信
施策	- 多様化する情報発信媒体の活用
施策	- すみだならではの魅力の発掘・再編集
施策	- イベント情報の一元管理と情報発信
施策	- MICEの誘致

戦略	 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集
施策	- すみだ文化ゾーンの創出
施策	- 世界的な芸術家・北斎に着目した観光的魅力の向上
施策	- 「両国観光まちづくりグランドデザイン」の推進
施策	- 江戸文化を活用した観光プログラムの充実
施策	- 江戸情緒を醸し出す景観の創出
戦略	 産業と観光の融合
施策	- 3M運動等と連動した“ものづくり観光”の推進
施策	- “ものづくり”のブランド力を活かした新たな誘客
施策	- すみだならではの食を活用した“まち歩き観光”の推進
施策	- 商店街・商業施設と連携した観光プログラムの充実
戦略	 水都すみだの再生
施策	- 水辺空間を活用した賑わいの創出
施策	- 舟運を活用した回遊性向上と新たな魅力づくり
施策	- 広域連携による観光舟運の活性化

戦略	 観光振興を支える基盤の充実
施策	- 安全・安心な観光地づくり
施策	- 次世代の観光まちづくりの担い手の育成
施策	- 観光客の受入れ体制の強化
施策	- 国際交流の推進
施策	- 公共空間を活用した賑わいの創出
施策	- 快適に回遊できる美しい都市環境の充実
施策	- 主要観光ルートでの賑わい創出と魅力の向上
施策	- 回遊性向上のための交通インフラの充実
施策	- 情報インフラの充実
施策	- すみだ観光の品質管理

施策 - 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けた観光プロモーション

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催に向けて、東京都には国内外から数多くの観光客が訪れるものと予想されます。特に、国技館がボクシングの競技会場になること、隣接する江東区に数多くの競技会場が位置することなどを考慮すると、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会は、「国際観光都市すみだ」の実現を図る上での非常に大きなチャンスとなります。

また、こうしたチャンスを活かし、墨田区の観光振興を図っていくためには、東京スカイツリーを含む東京スカイツリータウン、江戸東京博物館などといった著名な施設のみならず、区内に点在する様々な観光資源や多様な魅力を、より多くの人に知ってもらい、訪れてもらえるようにすることが必要です。

海外における観光プロモーションの強化（発地での観光プロモーション）

このため、今後の観光振興にあたっては、国内外から多くの観光客が訪れる2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えて、特に外国人観光客をターゲットとした観光プロモーションを戦略的に実施していきます。

具体的には、出発前に旅程を組む割合が高いという外国人観光客の特徴を踏まえ、出発前に墨田区のことを知ってもらい、墨田区への来訪を事前に旅程に組み込んでもらえるように、海外における観光プロモーションを実施します。

また、施策I-②で示すように、海外における観光プロモーションの実施にあたっては、国、都、近隣区、東京スカイツリーなどの区内の著名な民間施設との連携を図ることで、効果的な観光プロモーションを展開していくこととします。

訪日外国人への情報発信（着地での観光プロモーション）

上記の発地側での観光プロモーションに加えて、区内や都内の宿泊施設や著名な観光施設との連携を図ることなどにより、日本を訪れている外国人への情報発信にも力を入れ、着地側での観光プロモーションも強化していきます。



ものづくり体験をした外国人（アトリエ創藝館）

《施策展開》

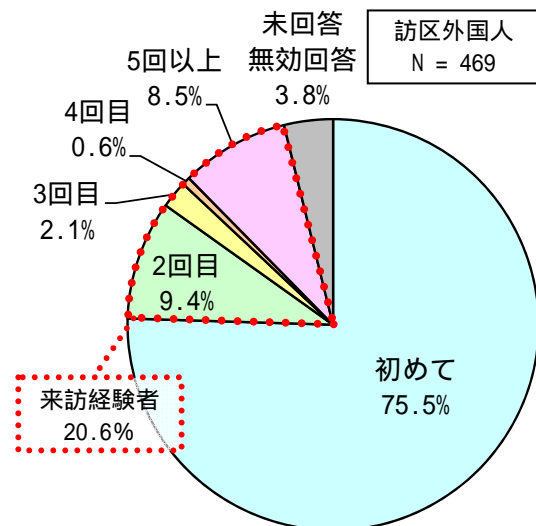
- ・ 海外における観光プロモーションの強化（発地での観光プロモーション）
 - ⇒海外のマスメディアや旅行会社への観光プロモーション
 - ⇒海外の観光ガイドブック等への情報提供
 - ⇒墨田区在住の外国人と連携した情報発信
 - ⇒区内民間事業者と連携した海外での観光プロモーション
- ・ 訪日外国人への情報発信（着地での観光プロモーション）
 - ⇒宿泊施設と連携した観光プロモーション（墨田区の観光マップやパンフレットの配布等）
 - ⇒区内外の観光スポットにおける外国人向けの観光プロモーション

等

参考：訪区外国人の墨田区への来訪経験

墨田区が平成 26 年度に墨田区を訪れた外国人を対象に行った調査では、75.5%が「初めて」墨田区を訪れたと回答しており、来訪経験のある外国人は20%程度です（右図参照）。

「国際観光都市すみだ」を実現するためには、外国人にもっとすみだ観光のことを知ってもらい、墨田区に訪れてもらうことが重要です。また、そのためには、外国人をターゲットとした観光プロモーションの強化が必要と考えられます。



訪区外国人の墨田区への来訪経験
データ：外国人観光客等の実態及び観光ニーズ等調査（平成 26 年度 / 墨田区）

施策 - 他地域との広域連携による情報発信

墨田区の周辺には、上野や浅草といった国内有数の観光地を有する台東区や2020年オリンピック・パラリンピック東京大会における数多くの競技場が建設される江東区などが位置し、これまでも台東区、江東区との連携による3区共通の観光マップの発行や（右図参照）、台東区との連携による浅草と東京スカイツリー一帯のまち歩きマップの発行などの取組みを行ってきました。また、外国人観光客誘致に関わる観光プロモーションについては、他県の自治体とも連携を図ってきました。他地域と連携することで、本区単独で情報発信を行うよりもマーケットに対する訴求力が高まり、効果的かつ効率的な観光プロモーションの実現が可能となることから、今後も拡充して実施していきます。



「EAST TOKYO 観光マップ」
墨田区・台東区・江東区の
3区が連携して作成

他地域との連携による観光プロモーションの展開

墨田区の観光振興にあたっては、具体的には近隣区との連携や交通機関（鉄道、舟運など）でつながっている地域、歴史的・文化的に墨田区と縁のある地域（例えば江戸文化を継承している地域など）と連携を図るなど、他地域との連携による観光プロモーション、情報発信に積極的に取り組んでいきます。



「すみだまち歩きイベント」にお
ける他地域と連携した観光プロ
モーション

国や都との連携による観光プロモーションの実施

上記に加えて、国や東京都が主体となって実施する観光プロモーションに関わる事業に参画するなど、国や都との連携による観光プロモーションにも取り組んでいきます。

《施策展開》

- ・ 他地域との連携による観光プロモーションの展開
⇒近隣区との連携による観光プロモーションの実施
⇒交通機関でつながっている地域や、歴史的・文化的に墨田区と縁のある地域と連携した観光プロモーション
- ・ 国や都との連携による観光プロモーションの実施
⇒国や東京都が主体となって実施する観光プロモーションに関わる事業への参画

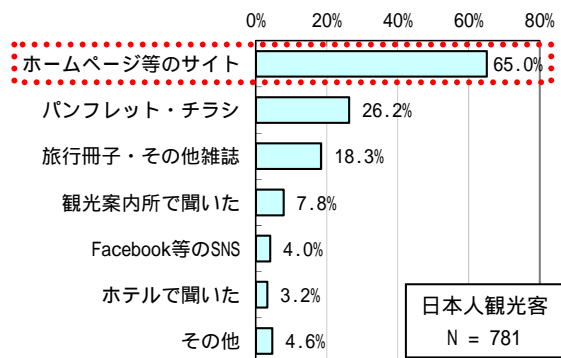
等

施策 - 多様化する情報発信媒体の活用

近年、インターネット環境の充実、スマートフォンなどの携帯端末、SNS の普及などにより、観光における情報発信、情報収集の形態はますます多様化しています。墨田区への来訪者を対象に実施した調査では、墨田区の観光などに関する情報収集の手段として「ホームページ等のサイト (65.0%)」が挙げられており、「パンフレット等のチラシ (26.2%)」「旅行冊子・その他雑誌 (18.3%)」「観光案内所 (7.8%)」がこれに続いています。また割合は少ないながらも「Facebook 等の SNS (4.0%)」も挙げられており、墨田区においてもインターネット上に公開されている口コミ情報が、観光情報の一つとして活用されつつあることが伺えます。

参考：墨田区来訪者の観光等に関する情報源

墨田区が平成 26 年度に墨田区を訪れた観光客を対象に行った調査では、墨田区の観光に関する情報を取得した人のうち、半数を超える 65.0%の観光客が「ホームページ等のサイト」を利用しており、インターネット上で情報発信を行うことが重要となっています（右図参照）。

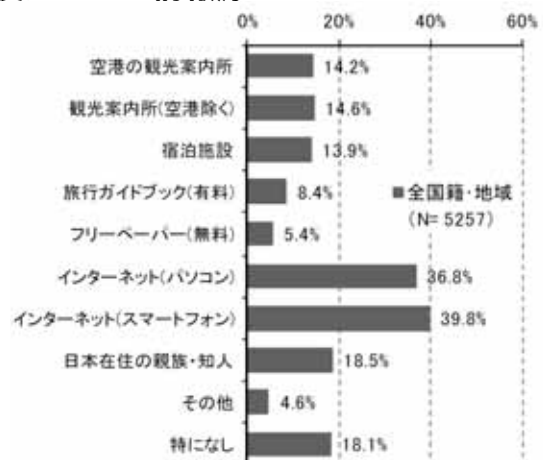


墨田区の観光に関する情報の取得方法（複数回答）
データ：観光消費額等調査（平成 26 年度 / 墨田区）

参考：訪日外国人観光客が日本滞在中に役に立った情報源

観光庁が平成 25 年に訪日外国人を対象に行った調査によれば、日本滞在中の観光情報で役に立ったものとしては「インターネット（携帯端末、パソコン）」を筆頭に様々な媒体、情報源が挙げられています（右図参照）。

このように、外国人観光客誘致においても、様々な情報媒体を活用した多角的な観光プロモーションの実施・展開が求められています。



日本滞在中に得た旅行情報で役に立ったもの
(全国籍・地域、複数回答)
出典：観光庁(2013)「訪日外国人の消費動向」

こうした情報発信に関する近年の動向を踏まえると、インターネット上のホームページにおける観光情報の発信をより一層充実させることが重要です。またパンフレット、観光案内所といった従来からある媒体による情報発信を継続すると同時に、近年、重要性を増しつつある SNS などによる個人の口コミ情報にも着目した観光情報の発信を図っていくことが有効です。

様々な媒体を活用した観光情報の発信

墨田区の今後の観光振興にあたっては、インターネットでの情報提供の充実、マップやパンフレットなどの紙媒体を活用した観光情報の発信に加えて、影響力の大きいマスメディア（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌）を活用した情報発信、地域に密着した広報紙やケーブルテレビ、口コミ情報に強い SNS など、墨田区の魅力を発信するために、多様な媒体を活用します。

特に、近年増えつつある SNS を活用した個人の口コミによる情報発信については、外国人観光客に区内の観光地の写真を SNS（交流サイト）に載せてもらい、海外へ口コミを広げることがをめざして、外国人観光客に Wi-Fi（公衆無線 LAN）ルーターを貸出すといった取組みを推進していきます。

さらに、「産業観光プラザ すみだ まち処」をはじめとする観光案内所の充実及び広域的展開を図り、積極的に観光情報の発信を行います。

フィルムコミッションの推進

上記の観光情報の発信に加えて、ドラマや映画などの撮影場所誘致や撮影支援などのすみだフィルムコミッションの取組みを推進することで、墨田区の知名度やイメージの向上を図っていきます。



墨田区が舞台になったドラマ

《施策展開》

- ・ 様々な媒体を活用した観光情報の発信
 - ⇒インターネットホームページでの情報発信の更なる充実
 - ⇒「産業観光プラザ すみだ まち処」などの観光案内所の充実及び広域的展開
 - ⇒マップ、パンフレットなどによる情報発信の積極的展開
 - ⇒影響力の大きいマスメディア（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌）とのタイアップによる観光情報の発信
 - ⇒地域に密着した広報紙やケーブルテレビ、SNS 等による個人の口コミ情報に着目した観光情報の発信
- ・ フィルムコミッションの推進

等

施策 - すみだならではの魅力の発掘・再編集

墨田区には、歴史、名所・旧跡、文化・芸術、水辺、ものづくり、食、昔ながらの商店街など、様々な観光資源が点在しています。墨田区では、こうした多種多様な観光資源、魅力を活用して、イベントの開催やまち歩きコースの設定などの観光プログラムの企画・開発が行われてきました。特に、平成25年度からは「すみだまち歩き博覧会」を展開しており、四季を通じて楽しめる24のまち歩きコースを発表しているほか、フォトコンテストやまち歩きイベントを実施してきました。



すみだまち歩き博覧会で作成したまち歩きガイドマップ

既存地域資源、既存のまち歩きコースのブラッシュアップ及び 新たな観光資源やまち歩きコースの発掘・開発

今後、更に観光振興を図っていく上では、こうした既存の観光資源や魅力を、新たな視点や新たなテーマで再編集するなど、更なる磨き上げを行うとともに、新たな資源・魅力の発掘を継続的に実施していくことが重要です。

今後の観光振興にあたっては、既存の観光資源、観光プログラムの磨き上げと、新たな資源、プログラムの発掘・開発を継続していくとともに、これらの魅力を伝え、広めるために、観光プロモーションの充実を図っていきます。特に、近年多くの成果を上げてきた「まち歩き観光」については更なる魅力向上、観光プロモーションの強化を図り、その継続的展開を図っていきます。



まち歩き観光を楽しむ観光客

《施策展開》

- ・ 既存地域資源、既存のまち歩きコースのブラッシュアップ
- ・ 新たな観光資源やまち歩きコースの発掘・開発
 - ⇒新たな資源を活かした、まち歩きコースの開発
 - ⇒外国人のニーズに合わせた観光資源、魅力の発掘
 - ⇒子供から大人までが墨田区の歴史・文化や、防災、ものづくり等について学び、体験できる観光プログラムの充実

等

参考：近年、着実に成果を上げつつある墨田区の「まち歩き観光」

墨田区では、東京スカイツリーの集客効果を区内に広げ、回遊性の向上を図ることをめざして、「まち歩き観光」に力を入れてきました。その結果、まち歩きガイドツアーの実施回数、参加者数が大幅に増加するなど、近年着実に成果を上げつつあります。

こうしたことから、今後の観光振興においても、墨田区の観光の目玉になりつつある「まち歩き観光」に継続的に取組むことが重要です。



墨田区におけるまち歩きガイドツアーの実施状況（年度別推移）

項目	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
コース数	4	4	14	23	37	22	22
ツアー回数（回）	6	5	137	219	214	324	588
ツアー参加者数（人）	67	110	1,910	2,146	1,638	3,321	3,519

H23年度は東日本大震災発生の影響により一時的に減少

施策 - イベント情報の一元管理と情報発信

墨田区では、東京を代表する花火大会の一つとして毎年 100 万人近い来場者数を誇る「隅田川花火大会」や毎年 30 万人近い人が来場する「すみだまつり・こどもまつり」、春の風物詩「墨堤さくらまつり」、トリフォニーホールでの音楽イベントをはじめとして、様々な集客イベントが年間を通して開催されています。

こうした大きなイベントに加えて、区内の町会・自治会ごとに行われる盆踊りや縁日、商店街で実施されるイベントなどは、区外から訪れる観光客、特に外国人観光客にとっては、そこに住む人々の文化に触れることができる魅力的なものとして映ります。これらの地域に根付いたイベントも、墨田区の住民はもとより、区外の人々にも楽しんでもらえる観光資源になりえることを認識することが重要です。

一方で、観光客が墨田区で開催されるイベント情報を入手しようとした時に、多くの魅力的なイベント情報を一括して知ることのできる情報インフラが整っていないのが現状です。

イベント情報の一元管理と

イベント情報を観光客が容易に取得できる仕組みの構築

今後は、区内で開催されている小さなイベントを観光資源として昇華させるとともに、区内のイベント開催情報を一元管理し、観光客が各々のタイミングで、手軽に情報を取得できるような、情報発信を積極的に行っていきます。



墨堤さくらまつり



隅田川花火大会



すみだまつり



区民祝賀イベントにおける神輿パレード

《施策展開》

- ・ 区内で開催される各種イベントの情報を一元管理する仕組みの構築
⇒観光に関わる様々な主体が情報交換、情報共有できる場（プラットフォーム）の創設
- ・ 各種イベントの情報を観光客が容易に取得できる仕組みの構築
⇒年間イベント情報の効果的な発信

等

施策 - MICE の誘致

国土交通省では、平成 25 年 6 月 14 日に閣議決定された「日本再興戦略」において、多くの人や優れた知見、投資を日本に呼び込む重要なツールとして MICE が位置付けられました。また、平成 25 年 6 月 11 日に観光立国推進閣僚会議で決定された「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」においても観光立国実現に向けた主要な柱の一つとして MICE が位置付けられています。更に、東京都では、平成 25 年に改定された「東京都観光産業振興プラン」の中で MICE 誘致の推進を観光産業振興に向けた 5 つの戦略のひとつとして掲げており、近年は MICE の誘致に関わる積極的な動きが国内で見られます。一方で、墨田区内においては、国技館で大規模な展示会が開催されるといった取組みの萌芽が見られます。

MICE 誘致に関わる取組みの推進

今後は、MICE 誘致が可能な施設の整理及び情報発信や MICE 誘致に向けたマーケティング及び観光プロモーションを実施するなど、積極的に取り組んでいきます。



隅田川サミット
(すみだリバーサイドホール・平成 24 年 6 月)



スモールメイカーズショー
(国技館・平成 25 年 8 月)

《施策展開》

- ・ MICE 誘致に関わる取組みの推進
 - ⇒MICE 誘致が可能な施設の整理及び情報発信
 - ⇒MICE 誘致に向けたマーケティング及び観光プロモーションの実施

等

※MICE とは、Meeting (会議・セミナー)、Incentive tour (報奨旅行)、Convention または Conference (大会・学会・国際会議)、Exhibition (展示会) の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一形態を指すものです。

施策 - すみだ文化ゾーンの創出

墨田区内には、江戸東京博物館、相撲博物館（国技館内）、郵政博物館（東京スカイツリータウン内）などの博物館、資料館があります。また、墨田区では、区の「産業」や「文化」に関連する製品、道具、文献・資料などのコレクションを工場、作業場、民家などの一部を利用して展示する「小さな博物館」の取組みを行っており、区内にはこれら「小さな博物館」が数多く点在しています。

また、平成 27 年 4 月には、たばこと塩の博物館が、平成 28 年度にはすみだ北斎美術館が開館する予定であり、平成 29 年度には両国公会堂跡地に新たに刀剣博物館の建設が予定されているなど、今後数年間で文化施設が更に充実することになります。

こうした状況を踏まえると、これからの観光振興にあたっては、区内に点在する博物館や美術館等の様々な文化施設を相互に連携させ、文化施設が集積する「すみだ文化ゾーン」として広くアピールしていくことが有効と考えられます。



江戸東京博物館



郵政博物館



刀剣博物館 外観イメージ図

区内の博物館、美術館等の文化施設の連携体制の構築及び

すみだ文化ゾーンの積極的なPR・情報発信

今後の観光振興にあたっては、区内に点在する博物館や美術館などを重要な観光資源として位置付け、これらをすみだ文化ゾーンとして積極的に売り出していくために、区内の文化施設相互が連携・協力するための体制、仕組みづくりを行います。更に、インターネットホームページなどにおけるすみだ文化ゾーンの情報発信や、すみだ文化ゾーンを構成する美術館、博物館マップの作成・配布を行うなど、すみだ文化ゾーンの積極的なPR・情報発信を行います。

博物館や美術館等と連携した回遊促進

博物館や美術館などの集客力を、墨田区全体の観光振興に活かしていくためには、博物館や美術館などへの来場者を区内回遊へと促すための仕組みづくりが必要です。このため、博物館や美術館などと連携した回遊促進の取組みを推進

していきます。具体的には、博物館や美術館巡りを促進するための取組みの実施や、博物館や美術館を起点とした観光ルートの検討・設定、博物館や美術館と連携したまち歩きイベントの開催などについて、今後検討していきます。

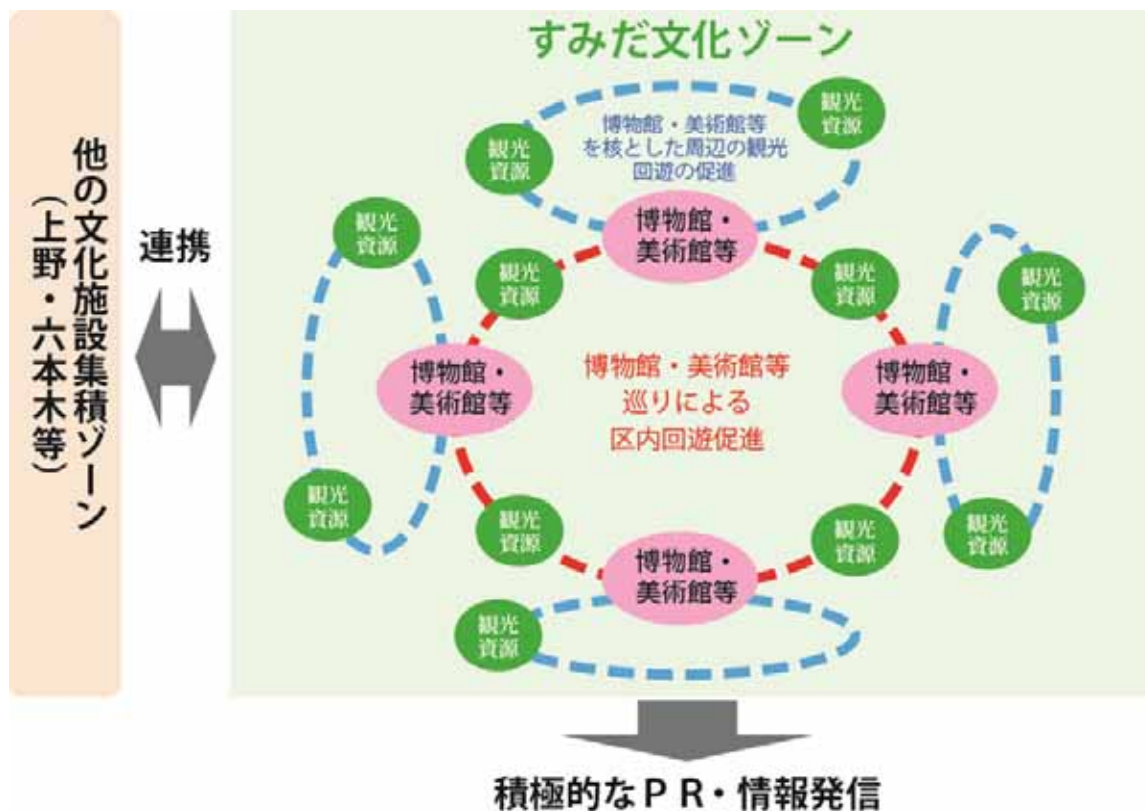
都内の他の文化施設集積ゾーンとの連携

すみだ文化ゾーンの知名度の向上と誘客をめざして、上野エリア、六本木エリアなど、都内の他の文化施設集積ゾーンとの連携を図っていきます。

《施策展開》

- ・ 区内の博物館、美術館等の文化施設の連携体制の構築
- ・ すみだ文化ゾーンの積極的なPR・情報発信
 - ⇒インターネットホームページ等での情報発信
 - ⇒博物館、美術館マップの作成
- ・ 博物館や美術館等と連携した回遊促進
 - ⇒博物館や美術館巡りを促進するための取組みの実施
 - ⇒博物館や美術館を起点とした観光ルートの検討・設定
 - ⇒博物館や美術館と連携したまち歩きイベントの開催
- ・ 都内の他の文化施設集積ゾーンとの連携 等

「すみだ文化ゾーン」の形成による観光振興のイメージ



施策 - 世界的な芸術家・北斎に着目した観光的魅力の向上

墨田区は、世界的な芸術家として評価の高い葛飾北斎の出生地であり、区内には北斎の作品が生み出された場所が多く存在します。また現在、両国と錦糸町を結ぶ北斎通りでは「北斎祭り」などの各種イベントやまちづくり活動が行われています。更に墨田区では、北斎を顕彰するとともに、産業や観光にも寄与する地域活性化の拠点として、すみだ北斎美術館を開館する予定です（平成28年度開館）。



墨田区で描かれた富嶽三十六景
上：御厩川岸より両国橋夕陽見
下：隅田川関屋の里

すみだ北斎美術館の整備と北斎通りの魅力向上

今後の観光振興にあたっては、すみだ北斎美術館の整備を進めるとともに、美術館開館に向けて、周辺環境整備を進めます。

また、美術館が面する北斎通りについては、美術館の開館に向けた環境づくりの一環として、賑わい創出に関わる取組みを推進していきます。

北斎に関わる観光プログラムの充実

すみだ北斎美術館の開館後には、全世界から北斎ファンが美術館を訪れることが想定されます。このため、こうした美術館への来場者をターゲットとして、すみだ北斎美術館との連携による回遊施策を展開するなど、北斎に関わる観光プログラムの充実を図っていきます。

北斎と墨田区との関係に関する情報発信（世界へ向けた情報発信）

葛飾北斎は世界的に知られた芸術家であり、特に欧米諸国での人気は非常に高いものがあります。しかしその一方で、北斎と墨田区の関係については、必ずしも広く知られてはいないのが現状です。

このため、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた外国人観光客の獲得及び、海外におけるすみだ観光の認知度の向上をめざして、すみだ北斎美術館や、北斎と墨田区との関わりを世界に向けて積極的に情報発信していきます。

《施策展開》

- ・ すみだ北斎美術館の整備と北斎通りの魅力向上
⇒すみだ北斎美術館周辺環境整備
⇒北斎通りの賑わい創出
 - ・ 北斎に関わる観光プログラムの充実
⇒すみだ北斎美術館との連携による回遊施策の展開
 - ・ 北斎と墨田区との関係に関する情報発信
⇒国内外への情報発信の強化
⇒各地での観光プロモーションにおけるPR活動の実施
- 等

参考：すみだ北斎美術館（平成28年度開館予定）

葛飾北斎は、宝暦10年（1760年）に本所割下水付近（現在の墨田区亀沢付近）で生まれ、90年の生涯のほとんどを墨田区内で過ごしながらか、優れた作品を数多く残しました。

「すみだ北斎美術館」では、北斎及び門人の作品等を紹介するほか、北斎と「すみだ」との関わりなどについて皆様にわかりやすく伝えていくため、企画展示をはじめ様々な普及事業を行う予定です。更に、これらの事業活動を通じて国内外に向けて情報を発信し、北斎と「すみだ」の魅力をより一層高めていきます。



すみだ北斎美術館（整備イメージ図）



すみだ北斎美術館

すみだ北斎美術館 ロゴマーク

施策 - 「両国観光まちづくりグランドデザイン」の推進

両国地区は、墨田区のなかでも江戸時代から育まれた歴史や文化が多く残り、葛飾北斎ゆかりの地や吉良邸跡、旧安田庭園、回向院、相撲など、歴史や文化に関わる観光資源が数多く点在する地域です。墨田区では、これらの貴重な観光資源を輝かせ、両国地域の魅力の底上げを図ることで、区全体の更なる魅力の向上をめざして、平成25年度に「両国観光まちづくりグランドデザイン」を策定しました。

「両国観光まちづくりグランドデザイン」では、「隅田川と水辺」「文化とものづくり」「暮らしと賑わい」という3つの地域特性を踏まえ、「両国開花宣言～粋に暮らし、粋に愉しむまち両国～」をコンセプトに、「粋・技・心」の視点を大切にしながら、地域資源の魅力向上と発信を図ることとしています。

今後の観光振興においては、「両国観光まちづくりグランドデザイン」に基づく様々な取組みを推進していくとともに、これらの取組みと連携・連動した施策を展開していきます。

両国開花宣言

～粋に暮らし、粋に愉しむまち両国～

明暦の大火(1657年)を機とした両国橋の架橋と回向院の創建。震災と戦災からの復興。両国川開き(花火)や相撲の賑わい。北斎が生まれ、暮らしたまち。両国に花開いた食文化や芸術文化、ものづくりの技。下町両国で暮らす人々の強い想い。江戸から受け継がれる粋な文化、災禍を乗り越えてきた人々の心意気、水辺とともにあるいきいきとした暮らし。こうした両国の新たな開花に向けて、「粋に暮らし、粋に愉しむまち両国」を育てていきましょう。

隅田川と堅川、川開きの賑わいと水辺の記憶がひろがるまち

- 鎮魂と復興への想いから始まった、両国川開き(花火)の賑わいをつくる
- 夕涼みなど、暮らしに潤いを与えた水辺の記憶を継承する*
- 橋に重なる想いを物語として発信する

両国橋と回向院、受け継がれる鎮魂への想い、粋な文化と躍動感があふれるまち

- 両国橋架橋から始まる、まちの記憶と物語を魅せる**
- 回向院や報恩堂など、鎮魂から始まるまちの歴史を想う
- 江戸の粋な文化*3、ものづくりの伝統を伝える

過去と未来が織り成す暮らしふりと“おもてなし”心意気がうれしい、懐が深いまち

- 暮らしふりとおもてなし、両国の心意気を継承する**
- 訪れる人を迎える、懐の深い“おもてなし”の心を育む
- 訪れる人とまちをつなぐ、まち歩きを誘える

「両国観光まちづくりグランドデザイン」のコンセプト



隅田川花火大会



回向院



国技館 わんぱく相撲全国大会

《施策展開》

- ・ まちの発信力を高めるための施策の展開
 - ⇒水辺の賑わいの再生と創出
 - ⇒地域資源の活用と発信力の強化
 - ⇒おもてなし気運の醸成とまち歩き観光の促進
- ・ まち歩き環境の魅力を高めるための施策の展開
 - ⇒賑わい軸の創出
 - ⇒まち歩き拠点の形成
 - ⇒水辺の賑わいゾーン・水辺の記憶ゾーンの形成

等



回向院 力塚



芥川龍之介文学碑



吉良邸跡



吉良上野介座像



江戸東京博物館



国技館



都立横網町公園



復興記念館



復興記念館館内



両国発着場



両国橋



江島杉山神社

施策 - 江戸文化を活用した観光プログラムの充実

江戸文化発祥のまちとして発展してきた墨田区は、忠臣蔵の舞台となった吉良邸跡などの史跡や現在も老舗の料亭が残る向島花街、両国の相撲、江戸時代を起源とする墨堤の桜など、現在でも江戸文化を感じられる資源が数多く存在しています。

また、こうした江戸文化に関わる活動を行っているNPOなどの関連団体も存在します。



忠臣蔵イベント

江戸文化をテーマとしたまち歩きコースやツアー、イベントなどは、これまでも取組みが行われてきましたが、墨田区ならではの特徴を活かした観光振興を進めるうえでは、既存の観光プログラムに更に磨きをかけ、その充実を図っていくことが重要です。

関連団体との連携等による観光プログラムの更なる充実

このため、今後の観光振興にあたっては、例えば、花街や相撲、伝統工芸といった江戸文化に関連する各種団体との連携による観光プログラムの充実を推進するなど、江戸文化を活用した観光プログラムの充実を継続的に図っていきます。

また、墨田区が平成26年に墨田区を訪れた外国人を対象に行った調査によると、「芸者（お座敷）体験」「相撲体験」「相撲観戦」といった江戸文化体験については、「次回訪問時に行いたい」との回答がいずれも25%以上となっており、外国人観光客の潜在的なニーズが高いことが伺えます。このため、今後の観光振興にあたっては、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた外国人観光客誘致の一環として、外国人向けの江戸文化体験プログラムの充実を図っていくこととします。



ゆかた de ガイドツアー

江戸・下町文化を継承している地域との連携強化

東京都内には伝統の技や花街の文化、人情など、江戸・下町文化を受け継いでいる地域があります。今後の観光振興にあたっては、こうした江戸・下町文化を継承している地域との連携強化を図っていきます。

《施策展開》

- ・ 関連団体との連携等による観光プログラムの更なる充実
⇒外国人向けの江戸文化体験プログラムの充実
- ・ 江戸・下町文化を継承している地域との連携強化

等

施策 - 江戸情緒を醸し出す景観の創出

墨田区は、江戸時代に端を発する名所・旧跡や文化・芸術に関わる観光資源が多く存在することが、観光面での大きな特色です。墨田区では、こうした貴重な地域資源である公園内の石碑や銅像などを修景改修し、訪れた人に地域の歴史・文化を伝承していく場所として歴史文化公園の整備を進めてきました。

しかしながら、街並みや景観については、明治維新以降の近代化、戦後の市街化や都市開発の流れの中で大きく様変わりし、江戸の情緒や風情が感じられる場所は、一部の公園や神社・仏閣など僅かです。

江戸文化に関わる観光資源を巡るまち歩き観光の推進は、墨田区の観光振興を図るうえで有効であり、その実現のためには、江戸情緒が感じられるような街並みや景観を創出することが重要です。

主要観光ルート等における江戸情緒が感じられる景観整備

このため、今後の観光振興にあたっては、「両国観光まちづくりランドデザイン」など、各地域で行われている各種まちづくりとの連携を図りつつ、向島花街の風情を活かした景観整備や、下町情緒と粋な江戸文化が感じられる街並みづくりなど、主要観光ルートにおける江戸情緒が感じられるような景観整備を推進していきます。

歴史文化公園の整備

これまで実施してきた歴史文化公園整備を継続し、歴史的な縁のある公園を対象に、公園内や地域の歴史文化資源を活かした修景などの改修を行い、訪れた利用者に地域ゆかりの歴史・文化を伝承していく場として、整備することにより、公園の魅力向上と周辺地域の回遊性向上を推進していきます。



歴史文化公園として整備した
露伴児童遊園

《施策展開》

- ・ 主要観光ルート等における江戸情緒が感じられる景観整備
⇒向島花街の風情を活かした景観整備
⇒下町情緒と粋な江戸文化が感じられる街並みづくり
- ・ 歴史文化公園の整備
⇒公園内や地域の歴史文化資源を活かした修景改修
⇒歴史文化公園案内板の整備

等

施策 - 3M 運動等と連動した“ものづくり観光”の推進

墨田区では、昭和 60 年（1985 年）より、墨田区の産業や製品の魅力を伝え、ものづくりの素晴らしさなどをアピールする「すみだ 3M（スリーエム）運動」を展開しておりその取組みとして、製品、道具、文献・資料などのコレクションを工場、作業場、民家などの一部を利用して展示する「小さな博物館」、製造現場と店舗が一体となった「工房ショップ」、優れた技術ですみだの産業を支える技術者を認定する「すみだマイスター」の取組みを実施してきました。それ以外にも、地域や事業者が中心となって、工場や工房を見学するイベントなども開催されています。

今後、区内の産業と観光の融合を図り、墨田区の特徴である伝統工芸や様々なものづくりを活かした観光振興を進めていくためには、墨田区伝統工芸保存会など、ものづくりに関わる地域団体との連携を図るとともに、これまでに実施してきた 3M 運動などの活動と連動した“ものづくり観光”のより一層の推進を行うことにより、ビジターズ・インダストリーの創出を図っていくことが有効です。

3M 運動の推進

すみだ 3M 運動の取組みとして実施してきた「小さな博物館」や「工房ショップ」「すみだマイスター」は、すみだのものづくりの魅力を観光客に伝えるうえで重要な施策であることから、今後もその取組みを継続的に展開していきます。

オープンファクトリーによる回遊促進

墨田区のものづくりに関わる工場や工房を見学するイベントを実施するなど、ものづくりに関わる工場や工房と連携した区内回遊促進を図っていきます。

すみだらしい“ものづくり体験”の充実

平成 26 年度に墨田区を訪れた外国人を対象に行った調査では、墨田区で「ものづくり体験」を行ったとの回答は 9.6%（820 人中 79 人）となっており、現状



小さな博物館「セイコーミュージアム」



工房ショップ「片岡屏風店」



すみだマイスター
「塚田 進氏（江戸木目込人形）」

ではそれほど多くはないものの、次回訪問時には行ってみたいとの回答は17.2% (820人中141人) となっていることから、潜在的なニーズは高いものと考えられます。

このため、今後の観光振興においては、外国人観光客にも楽しんでもらえるような“ものづくり体験”プログラムや、子供がすみだのものづくりを学習できるような体験プログラム、伝統工芸を活用した体験プログラムの充実など、すみだらしい“ものづくり体験”の充実を図っていきます。



子供向けものづくり体験
(すみだ江戸切子館)



外国人観光客によるものづくり体験

《施策展開》

- ・ 3M運動の推進
- ・ オープンファクトリーによる回遊促進
⇒ものづくりに関わる工場や工房と連携した区内回遊促進
- ・ すみだらしい“ものづくり体験”の充実
⇒外国人向けの“ものづくり”体験プログラムの充実
⇒子供が“ものづくり”を学習できるような体験プログラムの充実
⇒伝統工芸を活用した体験プログラムの充実

等

また、平成26年度に墨田区への観光客を対象に行った調査では、回答者の72.3%が墨田区内で「食事・喫茶」を行った、51.1%が墨田区内で「買い物」をしたと回答しており、すみだ観光において「食事・喫茶」と「買い物」は観光行動の主要な部分を占めていることが伺えます。更に同調査では、約半数が「行きなかったお店に行った」「買ったかったものを買った」「食べたかったものを食べた」と回答していることから、墨田区への来訪者はある程度こだわりや目的を持って「食事・喫茶」「買い物」を行っていることが伺えます。

こうした調査結果を踏まえると、こだわりや目的を持って買い物や飲食をする観光客をターゲットとした観光振興に取り組むことが有効と考えられます。

「すみだ地域ブランド戦略」を活かした観光施策の展開

今後の観光振興にあたっては、各種観光イベントなどにおけるすみだモダン認証商品や認証メニュー(飲食)のPR・販売を行うなど、「すみだ地域ブランド戦略」に基づく取り組みと観光面での連携を図り、すみだのものづくりや食のブランド力を活かして、外国人観光客を含む新たな観光客の誘致を図るなど、観光プロモーションを推進していきます。

また、すみだの産業と観光、歴史、文化、食などに関する情報発信拠点である「産業観光プラザ すみだ まち処」の充実や広域的展開により、すみだブランドの効果的な情報発信を行っていきます。

《施策展開》

- ・ 「すみだ地域ブランド戦略」を活かした観光施策の展開
 - ⇒各種観光イベント等における、すみだモダン認証商品や認証メニュー(飲食)のPR・販売
 - ⇒すみだブランドを活かした観光プロモーションの展開
 - ⇒「産業観光プラザ すみだ まち処」におけるすみだブランドの効果的な情報発信等の充実及び広域的展開



「産業観光プラザ すみだ まち処」

施策 - すみだならではの食を活用した“まち歩き観光”の推進

墨田区には、佃煮や和菓子、ちゃんこ鍋など、すみだの歴史の中で育まれた伝統的な食や、区内の飲食店、商店街などから発信される下町グルメ、昔ながらの洋食など、豊かな食文化が存在します。「すみだブランド認証事業」でも、こうした区内飲食店で提供される質の高いメニューを“すみだモダン”として認証し、売り出しているところです。

観光において「食」は、非常に人気が高く、魅力的なコンテンツであることを考え合わせると、観光振興においてもこうした食の魅力を活かした取組みをより一層推進していくことが重要です。また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた「国際観光都市すみだ」の実現という観点からも、外国人観光客が安心して区内で食事を楽しめるような環境づくりが求められます。

食を活用した回遊促進

今後の墨田区の観光振興にあたっては、墨田区ならではの食の発掘及び情報発信、区内飲食店による食べ歩き・飲み歩きをして楽しむイベントの支援をしていくなど、食を活かしたまち歩き観光を推進していくことで、食を活用した区内回遊の促進を図っていきます。

外国人向けの食の取組みの推進

平成26年度に墨田区を訪れた外国人を対象に行った調査では、墨田区で「日本食を食べた」との回答割合は73.4%と非常に高い結果となっており、日本食に高い関心があることが伺えます。また、区内で食べたメニューとしては、寿司(39.9%)、ラーメン(30.7%)、刺身(30.1%)、天ぷら(20.0%)が挙げられています。

このため、今後の観光振興にあたっては、国内外のメディアを活用したすみだの食の情報発信や、飲食メニューの多言語化、ハラル^{*}講座への支援など食に関わる外国人観光客の受入れ体制の強化を通じて、外国人が安心して食の魅力を体験できるような環境づくりを推進していきます。

参考：江戸前寿司発祥の地 両国

江戸前の「にぎり寿司」は、文政年間(1818~30年)初頭に両国で小泉与兵衛によって生み出されました。それまでは、鮓といえは上方の押し鮓のことを指しましたが、その場でネタを乗せてにぎり、提供するという新スタイルが江戸っ子の間で大受けしました。与兵衛は岡持ちから屋台を経て、本所元町に店を開いたとされています。



握り寿司のイメージ

^{*}ハラルとは、アラビア語でイスラム教の教えに基づいて「合法的なもの」「許可されたもの」を示す言葉で、主にイスラム法の上で食べてもよいものを指します。

《施策展開》

- ・ 食を活用した回遊促進
⇒墨田区ならではの食の発掘・情報発信
⇒食を活かしたまち歩き観光の展開
- ・ 外国人向けの食の取組みの推進
⇒国内外のメディアを活用した食の情報発信
⇒食に関わる外国人観光客の受入れ体制の強化

等

施策 - 商店街・商業施設と連携した観光プログラムの充実

墨田区内には、下町情緒あふれる商店街があるほか、錦糸町駅などの主要駅の周辺には大型商業施設も立地しており、生鮮食料品からブランド品まで、様々な買物を楽しむことができます。また、平成24年に開業した東京スカイツリータウンは、雑貨・日用品・衣料品・飲食などの店舗が集まる一大ショッピングセンターとなっています。

墨田区内における観光客などの回遊を促進し、地域経済の活性化を図るためには、商店街や商業施設などと連携して観光地としての魅力を高めていくことが重要です。

また、こうした連携を通じて、多くの買い物客が訪れる東京スカイツリータウンや錦糸町駅周辺などの集客拠点から、区内各所の商店街や商業施設へと人が回遊するような仕組みをつくることが重要です。



鳩の街通り商店街

商店街や商業施設と連携した回遊促進及び 地域商店街の特色を活かした取組み支援

墨田区の観光振興においては、例えば、商店街や商業施設と連携した集客イベントや、伝統的な食や商店街を巡るまち歩きツアーなど、墨田区銘品名店会・商店街・商業施設等と連携した回遊促進に関わる取組みを推進していきます。

また、地域の商店街の特色を活かした取組みに対しては積極的に支援を行い、観光客などの回遊促進、地域経済の活性化を図っていきます。

《施策展開》

- ・ 商店街や商業施設と連携した回遊促進
- ・ 地域商店街の特色を活かした取組み支援

等

施策 - 水辺空間を活用した賑わいの創出

墨田区は、江戸時代を起源とする桜並木が残る歴史豊かな隅田川、自然豊かな緑地や球技場がある荒川に東西を囲まれ、その内部には、江戸時代に開削された北十間川、横十間川、竪川などの内河川が網の目のように流れています。それぞれの河川では、景観整備や耐震護岸工事が行われており、一年を通して豊かな水辺空間を楽しむことができます。

水辺の魅力向上による賑わいの創出

水都すみだの再生により観光振興を図る上では、これらの多様な水辺空間の魅力をより一層高め、水辺の賑わいを創出していくことが重要です。このため、水辺の魅力を活かしたイベントの開催に積極的に取り組むなど、水辺を活用した賑わいの創出に取り組んでいきます。

水辺の観光拠点の整備

川を眺めながら飲食ができるカフェの誘致や、観光舟運の拠点となる船着場の機能強化、水陸両用バス活用も見据えたインフラ整備、荒川自然生態園の整備促進を図るなど、墨田区の特徴である水辺空間の観光拠点を充実していきます。

また、河川空間は区内に残された貴重な自然環境でもあり、こうした環境を活かして、ランニングや球技などのスポーツ観光の場、自然観察・学習の場などとしての整備・活用を図っていきます。

水辺の観光回遊動線の整備（浅草と吾妻橋、東京スカイツリーを結ぶ、水辺の観光回遊ルートづくり）

東京スカイツリーと浅草は、高い知名度と大きな集客力を誇る一大観光拠点であり、両者を結ぶ観光回遊ルートの形成は周辺一帯の観光振興を図る上で非常に重要です。また、東京スカイツリーと浅草は



墨堤の桜



水辺の賑わい創出イベント
「吾妻橋フェスト」



北十間川の夜景



おしなり公園船着場



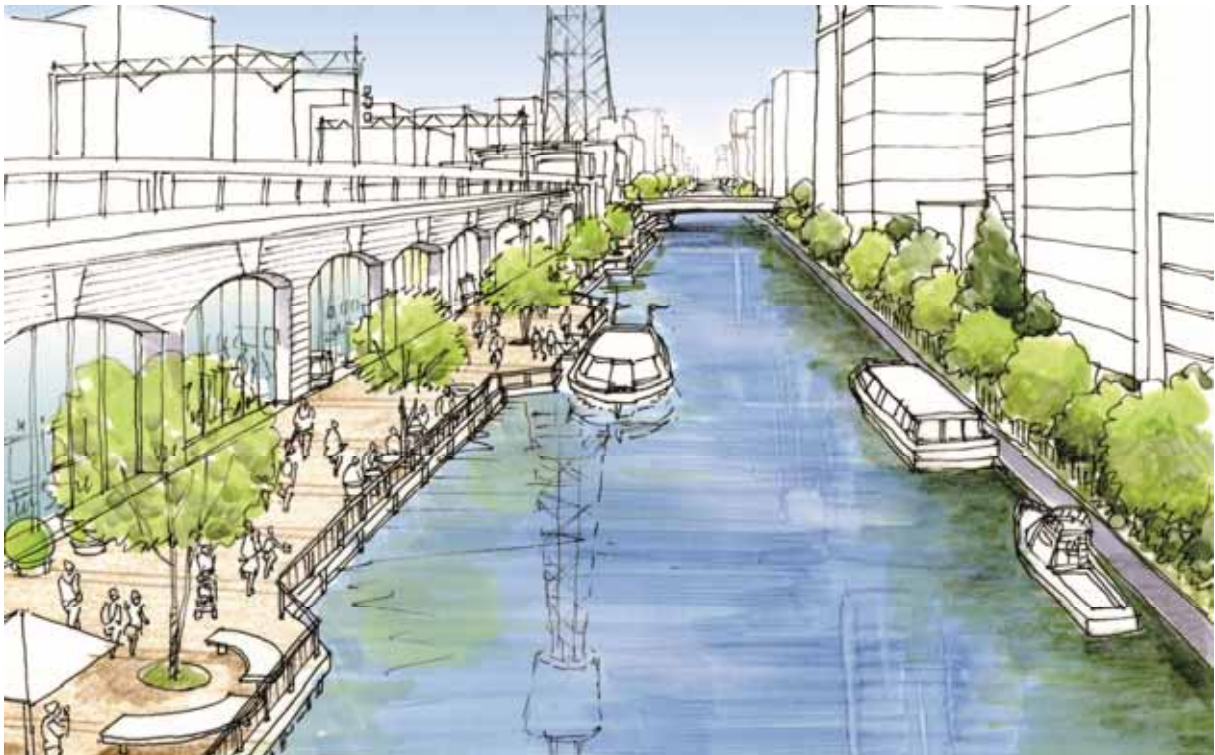
旧中川水辺公園

外国人に人気の観光スポットでもあるため、両者を結ぶ観光回遊ルートの形成は2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた国際観光の推進においても重要です。

今後は、北十間川と隅田公園の一体的な観光回遊路整備などを通じて、浅草から吾妻橋、隅田公園を経て東京スカイツリーに至る観光回遊ルートの形成を図るなど、水辺の観光回遊動線の整備を推進することで、区内の観光回遊をより一層促進していきます。

《施策展開》

- ・ 水辺の魅力向上による賑わいの創出
⇒水辺の魅力を活かしたイベントの開催
 - ・ 水辺の観光拠点の整備
⇒川を眺めながら飲食ができるカフェの誘致
⇒船着場の機能強化
⇒荒川自然生態園の整備促進
 - ・ 水辺の観光回遊動線の整備
⇒北十間川と隅田公園の一体的な観光回遊路整備
⇒隅田川遊歩道の景観整備
- 等



北十間川・隅田公園回遊路整備事業 イメージパース

(出典：東京都長期ビジョン：平成26年 東京都)

施策 - 舟運を活用した回遊性向上と新たな魅力づくり

墨田区ではこれまで、吾妻橋船着場、おしなり公園船着場などの船着場の整備を進めるとともに、観光舟運とまち歩きを組合わせたツアーなど、舟運を活用したイベント実施などを通じて、観光事業の活性化に取り組んできました。多様な河川空間があること、その沿川に様々な観光資源が立地していることは墨田区の大きな特徴であり、これらを巡る観光舟運は、すみだ観光の大きな目玉と言えます。



おしなり公園船着場（北十間川）

新たな魅力づくりによる観光舟運の活性化

今後の観光振興にあたっては、観光舟運に関わる民間事業者との連携強化を図るなど、舟運活性化に向けた仕組み・体制を整えるとともに、船着場の民間活用の推進、観光舟運の夜間運航の推進などを活かして、新たな魅力づくりに積極的に取り組み、観光舟運の更なる活性化を図っていきます。



夜間運航（社会実験時）

観光舟運を活用した区内回遊の促進

観光舟運を区内に点在する様々な資源を巡る区内回遊ルートの一部として位置付け、舟運を取り入れた区内回遊ルートを創出します。

また現在、船の通過ができない北十間川の樋門については、「北十間川水辺活用構想（平成18年／墨田区）」に基づいて、長期的な視点から船が通行できるように北十間川樋門の開門化を引き続き検討していきます。

《施策展開》

- ・ 新たな魅力づくりによる観光舟運の活性化
 - ⇒観光舟運に関わる民間事業者との連携強化
 - ⇒船着場の民間活用の推進
 - ⇒観光舟運の夜間運航の推進
- ・ 観光舟運を活用した区内回遊の促進
 - ⇒舟運を取り入れた区内回遊ルートの創出
 - ⇒長期的視点に立った北十間川樋門の開門化検討

等

施策 - 広域連携による観光舟運の活性化

墨田区は、隅田川、荒川、旧中川、横十間川などに囲まれており、これら河川を介して中央区、台東区、江東区、荒川区、足立区、葛飾区、江戸川区と接しています。また、より広い視点で見れば、日本橋やお台場、羽田空港など、河川や東京湾を通じて、様々な地域とつながっています。水都すみだの再生として、更なる水辺空間の魅力向上を図っていくためには、広域回遊や防災時の移動手段などにも有効な舟運の利点を活用し、広域連携を推進していくことが重要です。

広域連携による観光舟運の活性化、舟運ネットワークのより一層の拡大

今後は、墨田区だけでなく周辺地域と連携した観光舟運の活性化に取り組んでいきます。

具体的には、東京都が地元区（墨田区、中央区、台東区、江東区、荒川区）とともに進めている「隅田川ルネサンス」の取組みと連携を図るなど、観光舟運に関して、東京都や近隣区との連携を強化していきます。

更に、河川でつながる地域との広域的な舟運事業に取り組むなど、広域連携による観光舟運の活性化を図っていきます。



吾妻橋船着場（隅田川）



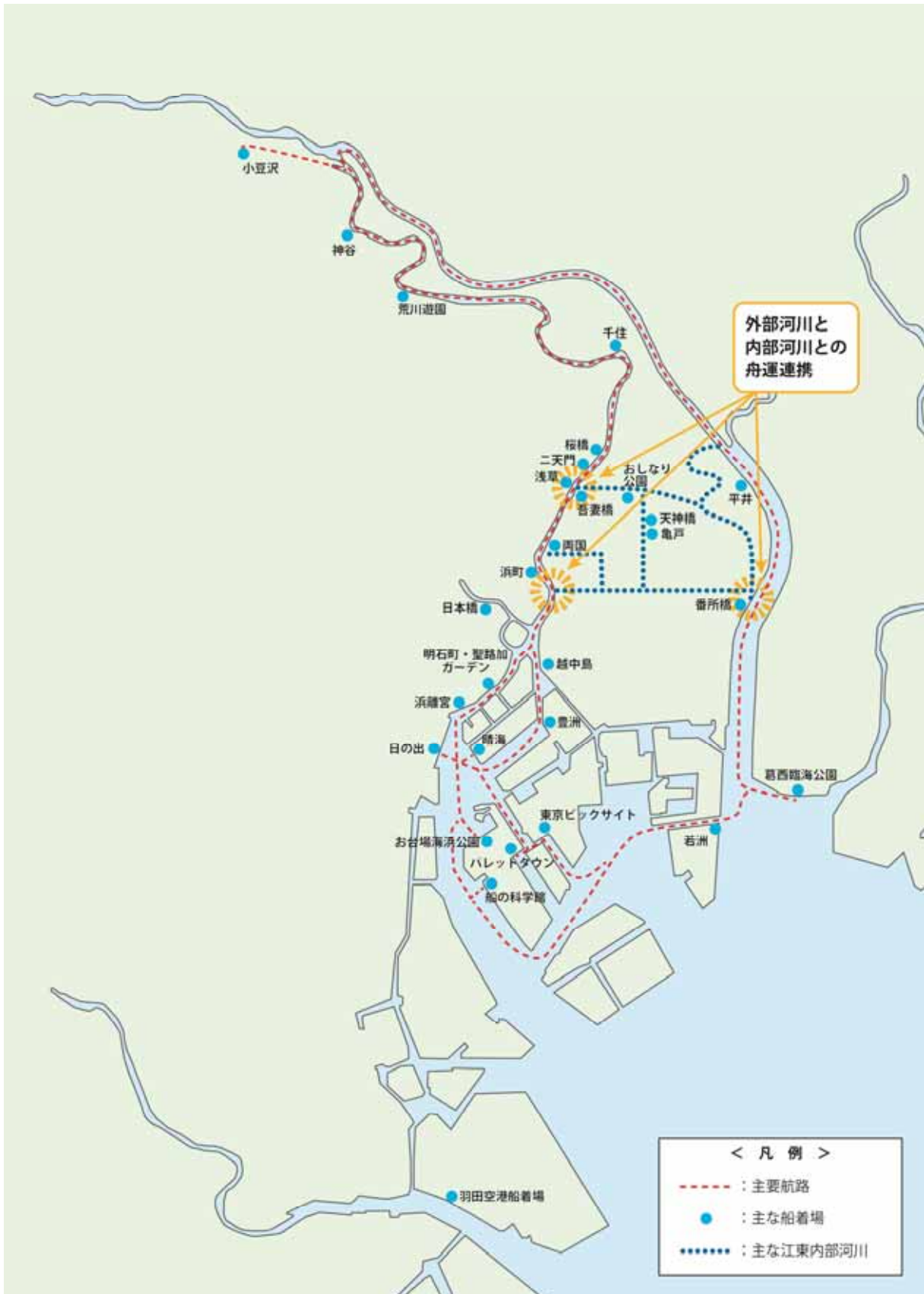
荒川ロックゲート（旧中川 荒川）

《施策展開》

- ・ 東京都や近隣区との連携強化
⇒隅田川ルネサンスとの連携
- ・ 川でつながる地域との広域舟運連携

等

広域連携による観光舟運の活性化の展開イメージ



施策 - 安全・安心な観光地づくり

墨田区には、東京スカイツリーや江戸東京博物館への来場者をはじめ、江戸文化の趣を残す両国や向島のまち歩き、隅田川花火大会の見物、大相撲観戦など、国内外から多くの観光客などが訪れています。墨田区では、こうした観光客の方に楽しい時間を過ごしていただくために、安全・安心な観光地づくりを進めていきます。

具体的には、歩行空間の段差の解消など、公共空間におけるバリアフリー環境を向上させ、誰もが安心してまち歩き観光ができるようなユニバーサルツーリズム^{*}の推進を図ります。

更に、墨田区では、大震災などが発生した場合を想定し、地域防災計画に基づく事前対策を推進します。日頃から地震や水害などに関する正しい情報を提供し、発災後には、観光客などの安全確保や円滑な避難誘導などが実行されるよう、必要な体制の整備を図り、減災に努めます。また、地域ぐるみで防犯対策を推進し、誰もが安全に楽しめる治安のよい観光地づくりに努めます。

《施策展開》

- ・ 多言語による様々な情報提供体制等の構築
- ・ 事業者、地域と区が連携した避難体制の構築（帰宅困難者対策協議会の運営）
- ・ 災害時の観光客等受入れ先（一時避難場所等）の確保
- ・ 防犯カメラの設置等による安全確保
- ・ ユニバーサルツーリズムの推進 等

※ユニバーサルツーリズムとは、年齢や性別、国籍、障害の有無などに関わらず、すべての人が楽しめるように工夫された観光・旅行のことを指す言葉です。

施策 - 次世代の観光まちづくりの担い手の育成

墨田区では、観光振興の中核的組織である墨田区観光協会を平成 21 年に一般社団法人化して観光振興に取り組んできましたが、持続的な観光振興の推進のためには、中核的組織に加えて、それを支えるサポーター、担い手を育成することが重要です。

こうした観光まちづくりの担い手の育成は、将来的に墨田区の観光を支えてくれる人材を確保するうえでも大切な取り組みだといえます。そのうえで、2020

年オリンピック・パラリンピック東京大会やその先のすみだ観光を見据えれば、区内の小中学生が墨田区の観光や地域のことについて学ぶ機会をつくることで、観光振興を図るうえで求められることが考えられます。

そこで、観光まちづくり読本の作成や地域を題材にしたセミナーなどの実施、墨田区の観光について学ぶ学習プログラムの開発（学校教育での活用）、小学生に観光の取組みに参加してもらうキッズサポーター制度の導入など、多様な主体がすみだ観光に関わることができ、未来に続いていくための仕組みづくりを行います。



子供向けものづくり体験（浜野製作所）

《施策展開》

- ・ 観光まちづくり読本の作成
- ・ 地域を題材にしたセミナー等の実施
- ・ 墨田区の観光について学ぶ学習プログラムの開発（学校教育での活用）
- ・ 小学生に観光の取組みに参加してもらうキッズサポーター制度の導入 等

施策 - 観光客の受入れ体制の強化

墨田区では、これまでも墨田区観光協会の法人化や、観光ガイドの充実、観光案内所の機能強化、地元店舗が案内所を兼ね備える「街あるき案内処」の設置など、観光客の受入れ体制を徐々に整えてきました。

今後の更なる観光振興にあたっては、こうした取組みに加え、区内の既存資源の活用や、新規マーケットの観光客の受入れ体制を整えていくことが求められます。具体的な例の一つとしては、修学旅行生の受入れ体制を整えるといったことが考えられます。墨田区には、関東大震災と東京大空襲によって亡くなった人々の遺骨を納めている東京都慰霊堂があり、これは後世に震災や戦災の恐ろしさ、平和の尊さなどを伝えるための平和学習の題材となりえます。このほか、明暦の大火で亡くなった人々を供養するために創建された回向院や、防災に関する知識を体験などを通じて学ぶことのできる本所防災館など、防災学習に活用できる施設が区内に存在します。これらの資源を活用し、修学旅行生が平和や防災などについて学ぶための拠点づくりを行い、更なる誘客を図ることができると考えられます。

また、観光客の方々に墨田区の魅力により深く親しんでもらうとともに、集客の効果を地域経済へ幅広く波及させていくためには、宿泊を含めて本区に長く滞在して頂けるような体制を整えることが重要です。

今後は、観光案内・ガイドの更なる充実（認定制度など）や外国人観光客の受入れ体制の強化（人材育成など）に加えて、平和学習・防災学習の拠点づくり、修学旅行などに活用できる学習プログラムづくりなどの実施により、体制の強化を図り、「総力を挙げて取組む観光まちづくり」を実現し、更なる観光客の獲得と宿泊を含めた滞在型観光の推進をめざします。

《施策展開》

- ・ 観光案内・ガイドの更なる充実（認定制度等）
- ・ 外国人観光客の受入れ体制の強化（人材育成等）
- ・ 平和学習・防災学習の拠点づくり
- ・ 修学旅行等に活用できる学習プログラムづくり 等

施策 - 国際交流の推進

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、今後の積極的な観光振興に関わる取組みの実施によって、墨田区を訪れる外国人観光客が増加していくことが期待されます。こうした動きを確固たるものにするためには、墨田区の魅力について情報発信をするだけではなく、墨田区の歴史や文化に触れてもらい、区民と外国人観光客が交流できる機会を創出することが重要です。外国人観光客が区民との交流やその地域の文化に直接触れる機会を得ることで、墨田区に対する印象をより強いものとすることができ、外国人観光客の満足度向上につながるものと考えられます。

そこで、外国人観光客との交流イベントの実施や、海外からの修学旅行の誘致、区内の学生との交流プログラムの構築などによって、区民と外国人観光客が交流する機会を創出し、国際交流の推進を図ります。



墨田区を訪れる外国人観光客

《施策展開》

- ・ 外国人観光客との交流促進
- ・ 海外からの修学旅行の誘致、区内の学生との交流プログラムの構築 等

施策 - 公共空間を活用した賑わいの創出

近年、河川空間や道路空間などの一部を地域活性化の取組みに活用する公共空間のオープン化の試みが各地で行われています。墨田区においても、これまで、観光客の区内回遊促進などを目的として、おしなり公園や北十間川南側道路の一部を活用したオープンカフェの社会実験（おしなり街角スカイカフェ）を開催しています。また、錦糸公園や大横川親水公園などの区内の主要な公園は、様々なイベントの会場としても活用されています。地域活性化、賑わいの創出を目的とした公共空間の新たな活用は、全国的な流れでもあり、観光振興においても大きな効果を発揮するものと考えられます。

このため、墨田区の観光振興においては、墨田区の特徴である水辺とその周辺の一体的な整備（休憩所、カフェなど）や河川、道路の観光活用（イベントなど）など、公共空間を活用した賑わいの創出を推進します。

《施策展開》

- ・ 水辺と周辺空間の一体的な整備（休憩所、カフェ等）
- ・ 河川や道路等の観光活用（イベント等）

等

参考：道路等の公共空間を活用したオープンカフェ等

近年、道路や河川などの公共空間を賑わい創出のためのオープンカフェや各種イベントの場として使用するといった、公共空間の新たな活用が全国的に行われています。また平成 23 年 10 月の都市再生特別措置法の一部改正によって、一定の条件を満たすことで、道路上でオープンカフェ等を日常的に営業できるようになり、こうした公共空間の新たな活用は全国的なトレンドになりつつあります。



隅田公園オープンカフェ
(台東区)

モア4番街オープンカフェ
(新宿区)



施策 - 快適に回遊できる美しい都市環境の充実

墨田区ではこれまでも、まち歩き観光の推進によって区内の観光回遊性の向上を図ることをめざして、道路の景観整備や遊歩道整備、バリアフリー化などの歩行環境の充実、公共サインの設置・更新や多言語化などによる情報インフラの充実、まち歩きトイレの整備などの取組みを進めてきました。

今後、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた場合、国内外から多くの観光客が快適に回遊できる、美しく整った都市環境を整えることが重要です。東京スカイツリーや河川の眺望、美しい桜並木、江戸の風情が感じられる街並みなどの景観は、区民の郷土愛醸成のための土台となるものであり、多くの観光客にとっての魅力ある観光資源にもなりえます。美しい街並みを作り上げることはまち歩き観光の推進にもつながり、観光客などの区内回遊行動を誘発することができます。

そこで、すみだ花の道の整備や北十間川・隅田公園観光回遊路の整備、まち歩きトイレの整備、道路バリアフリーの整備、江東内部河川遊歩道の整備、オリンピック競技施設周辺などの無電柱化の実施、主要道路の景観整備、屋外広告物の景観誘導に関するガイドラインの策定・運用などの取組みを通じて、美しい街並み・景観づくりを推進し、観光客が快適に回遊できる美しい都市環境の充実を図ります。



美しい街並み



隅田公園



タワービュー通り

《施策展開》

- ・ すみだ花の道の整備
- ・ 北十間川・隅田公園観光回遊路の整備
- ・ まち歩きトイレの整備
- ・ 道路バリアフリーの整備
- ・ 江東内部河川遊歩道の整備
- ・ オリンピック競技施設（国技館）周辺等の無電柱化の実施
- ・ 主要道路の景観整備
- ・ 屋外広告物の景観誘導に関するガイドラインの策定・運用 等

施策 - 主要観光ルートへの賑わい創出と魅力の向上

墨田区には、東京スカイツリーの眺めを楽しめるように整備されたタワービュー通りや、花街・向島のメインストリート・見番通りなど、観光客にとって魅力的な通りが存在します。

こうした主要観光ルートの魅力を高め、沿道の賑わいを創出することは、墨田区が継続的に取り組んできた「まち歩き観光」の推進、区内回遊性の向上に大きな効果を発揮するものと考えられます。

このため、沿道住民や、商店などの沿道事業者との連携・協力を図りつつ、区内回遊性のより一層の向上をめざして、主要観光ルートの賑わい創出を図っていきます。



タワービュー通りでのイベントの様子

《施策展開》

- ・ タワービュー通り等の賑わいの創出 等

施策 - 回遊性向上のための交通インフラの充実

墨田区では、東京スカイツリーの開業を契機として、観光客が区内回遊を楽しむ際の案内役として、また、区民生活の身近な交通手段として墨田区内循環バスの運行を行っています（平成24年3月20日から開始）。

今後も区内の観光回遊性を高め、より広い範囲で墨田区の魅力を楽しんでもらうために、自転車利用環境向上に向けた取り組みや区内循環バス、観光舟運の更なる活用など、回遊性向上のための交通インフラの充実を図っていきます。



区内循環バス



歩行者優先道路
（自転車が通行する部分が指定された道路）

《施策展開》

- ・ 自転車利用環境向上に向けた取り組み
- ・ 区内循環バスや観光舟運の活用 等

施策 - 情報インフラの充実

近年、IT 技術の発達・通信網の充実により、現地で携帯端末を使用して情報を入手する観光客が増えており、より多くの観光客に的確に観光情報を伝えるためには、無料 Wi-Fi 接続環境を充実させることが非常に重要です。また、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた場合、外国人観光客への情報提供の充実を図っていくことも大切です。

そこで、史跡など観光資源の案内表示の充実・整備や外国人観光客に対する Wi-Fi 環境の向上、公共サインの情報更新・充実、多言語対応、観光拠点の認知度向上と情報発信拠点としての機能強化など、情報インフラの充実を図ります。



外国人観光客の受入れには Wi-Fi 環境の整備が重要

《施策展開》

- ・ 史跡等観光資源の案内表示の充実・整備
- ・ 外国人観光客に対する Wi-Fi 環境の向上
- ・ 公共サインの情報更新・充実、多言語対応
- ・ 観光拠点の認知度向上と情報発信拠点としての機能強化 等

施策 - すみだ観光の品質管理

すみだ観光の魅力向上を継続的に図っていくためには、効果的な情報発信・観光プロモーションや魅力的な観光プログラムの開発・実施、基盤となるインフラの充実などに加えて、定期的にその品質確保のためのマーケット調査などを実施し、その結果を、観光プロモーションの見直し、観光プログラムの磨き上げ、インフラ整備などに適切に活かしていくことが重要です。すみだ観光の魅力向上の継続性を担保するためには、観光ガイドなど、観光客を迎える人材の育成を図っていくことも必要です。

このため、墨田区の観光振興にあたっては、観光客満足度調査の実施や、調査結果に基づく観光施設・資源の磨き上げ、観光客おもてなし体制の充実（人材育成など）を図るなど、すみだ観光の継続的な魅力向上を図っていくための品質管理を実施します。

《施策展開》

- ・ 観光客満足度調査等の実施
- ・ 観光施設、観光資源の磨き上げ
- ・ 観光客おもてなし体制の充実（人材育成等） 等

第5章 リーディングプロジェクト

墨田区における観光振興を着実に推進していくためには、戦略的な視点から墨田区の観光振興を先導するプロジェクトを定め、これらのリーディングプロジェクトの実行を通じて、関連する戦略・施策の実現化を図ることが有効です。

こうした考え方のもと、本プランでは以下に示す3つのリーディングプロジェクトを定め、これらのプロジェクトを行政、関連団体、区民が連携・協力しながら着実に推進していくこととします。

リーディングプロジェクト

3つの戦略拠点を核とした観光振興の推進と広域連携強化

戦略的に観光振興を特に図るべき拠点（戦略拠点）として、「両国ゾーン」「東京スカイツリー周辺ゾーン」「向島ゾーン」の3つを位置づけ、戦略的・集中的に観光振興事業を展開するとともに、関係する自治体・事業者などと積極的に広域連携を図ることで、「すみだ観光」の更なる魅力向上を図ります。

リーディングプロジェクト

「お・も・て・な・し」の展開 ～国際観光都市をめざして～

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据え、墨田区の魅力を対外的にアピールするための取組みや、ハード・ソフト両面での外国人観光客受入れのための環境整備などを推進することで、本プランの目標でもある「国際観光都市すみだ」の実現を図ります。

リーディングプロジェクト

都市トランジット観光の推進 ～移動すること自体が楽しい観光地づくり～

鉄道やバス、船、自転車などの乗り物や徒歩といった多様な移動手段で区内を巡ることが墨田区の特徴であり、魅力でもあります。このため観光振興にあたっては、交通インフラの更なる充実や景観整備、これらを活用した観光プログラムの開発・実施を図るなど、移動すること自体が楽しい観光地づくりを推進します。

リーディングプロジェクト

3つの戦略拠点を核とした観光振興の推進と広域連携強化

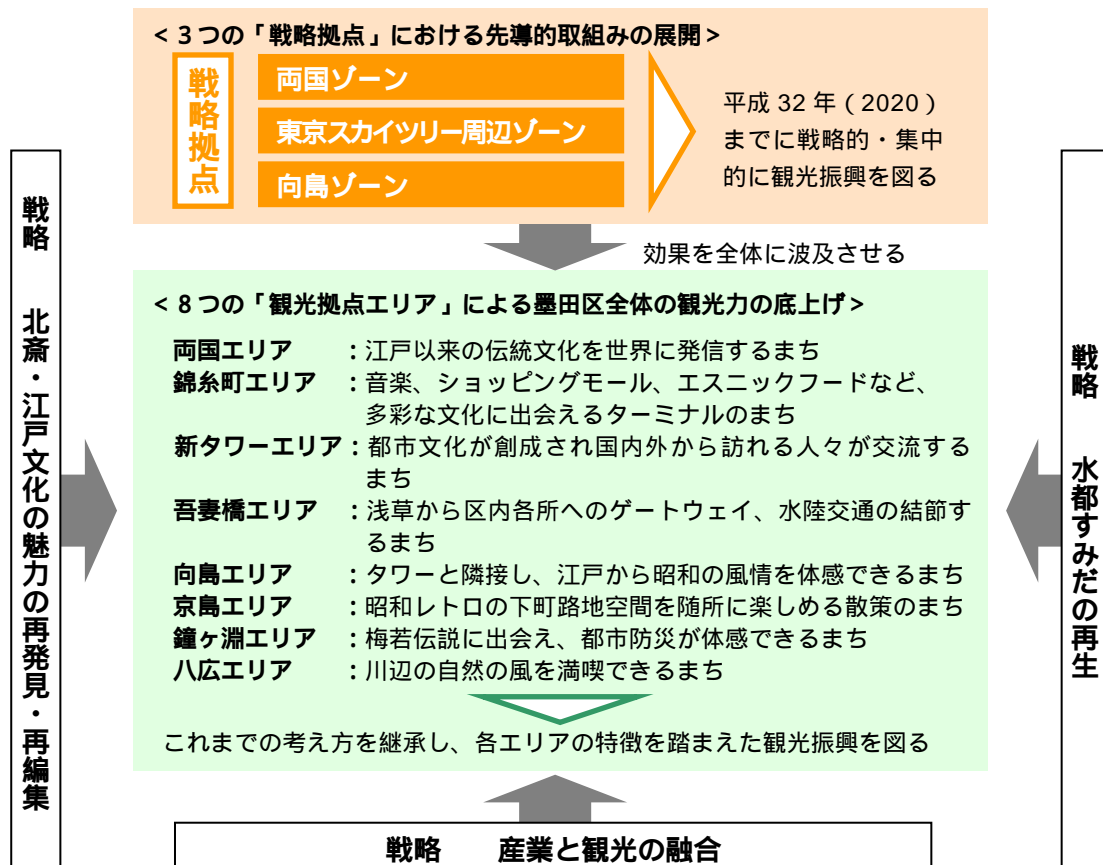
戦略拠点の設定の考え方

本プランの第1章に示したように、平成20年に改訂した「墨田区観光振興プラン（第二次計画）」では、全域的な観光力の底上げを図ることに主眼を置いて、地域的バランスを考慮した8つの観光拠点エリアを定め、エリア別の「観光都市づくりのコンセプト」に基づいて観光振興を進めてきました（p.5参照）。

今後の更なる観光振興にあたっては、こうしたエリアの特徴を活かした観光振興という基本的な方向性は継承しつつ、「選択と集中」の考え方に基づいて、先導的に観光振興を図っていくべき場所を見極め、計画期間の終了までの限られた時間の中で、戦略的・集中的に事業を展開していくことが重要です。

以上を踏まえ、今後の観光振興においては、8つの観光拠点エリアの考え方に基づき、既存資源の活用や安全・安心な観光地づくりなど、全域的な観光力の底上げというこれまでの方針は踏襲しつつ、本プランの計画期間である平成32年（2020）までに戦略的に観光振興を特に図るべき拠点（戦略拠点）として、「両国ゾーン」「東京スカイツリー周辺ゾーン」「向島ゾーン」の3つを位置づけ、戦略的・集中的に観光振興事業を展開していきます（次図参照）。

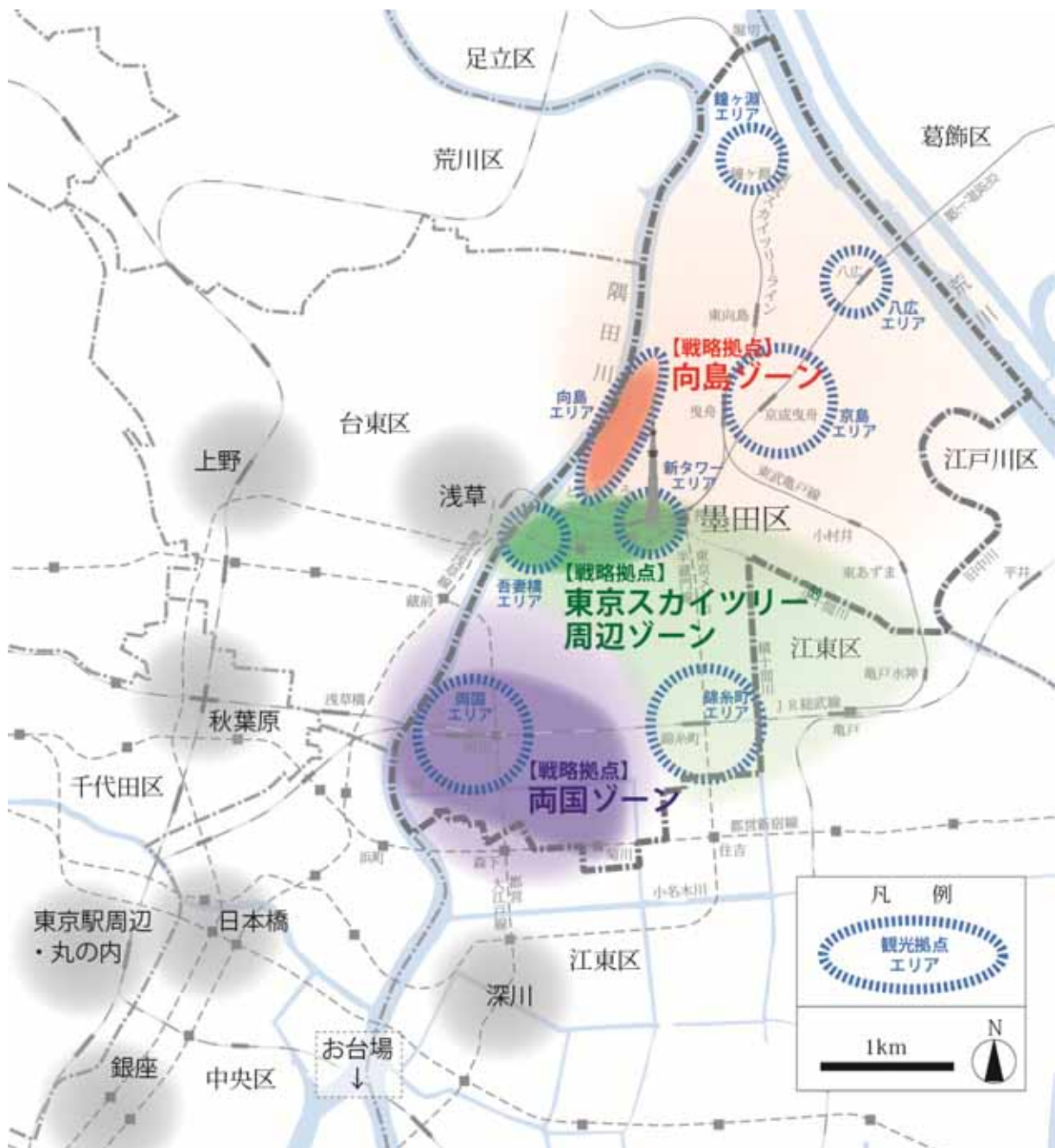
3つの戦略拠点を核とした観光振興の考え方



これら3つの「戦略拠点」において集中的に観光振興事業を展開することで、墨田区内により多くの観光客を誘致し、その誘客効果を8つの「観光拠点エリア」に波及していくことをめざします。また、本プランの第3章に示した「戦略 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集」「戦略 産業と観光の融合」「戦略 水都すみだの再生」を全区的に展開していくことで、8つの「観光拠点エリア」による墨田区全体の観光力の底上げを図ります。

更に、取組みの実施にあたっては、江戸文化や舟運などの共通するテーマを持つ自治体や、近接する自治体と積極的に広域連携を図ることで、観光的魅力を向上させ、更なる観光振興をめざします。

8つの「観光拠点エリア」の中の3つの「戦略拠点」



各戦略拠点の観光振興の考え方

【戦略拠点：両国ゾーン】

本ゾーンには江戸東京博物館や国技館、すみだ北斎美術館(平成 28 年度開館予定)など、区内の主要観光施設が立地しています。また、「両国観光まちづくりグランドデザイン」に基づいて、官民連携による観光まちづくりが他に先駆けて進められているゾーンでもあります。

このため、本ゾーンを「戦略拠点」として位置づけ戦略的・集中的に観光振興を図っていきます。

両国ゾーンには、江戸東京博物館や国技館などの都内有数の観光施設が立地しているほか、平成 25 年度に策定した「両国観光まちづくりグランドデザイン」に基づいて、江戸から受継がれてきた粋な暮らしや文化を活かした観光まちづくりを官民一体となって進めています。また、両国ゾーンには、平成 28 年度開館をめざして整備を進めているすみだ北斎美術館をはじめ、両国公会堂跡地には刀剣博物館の開館が予定されており、大きな集客力を誇る江戸東京博物館とともに、周辺一帯には一大文化ゾーンが形成されることとなります。更に、べっ甲、袋物、桐細工といった伝統工芸や印刷、ニットなどの地場産業などものづくりと産業に関わる資源の集積もみられます。加えて、隣接する隅田川には両国発着場もあり、隅田川の舟運を通じて、浅草や日本橋、お台場といった都内の主要観光地とつながることができます。

このため、両国ゾーンについては、「北斎・江戸文化」「ものづくり」「水辺・舟運」といった、多様な魅力が体験できる観光拠点としての観光振興を図っていきます。具体的には、平成 25 年度に策定した「両国観光まちづくりグランドデザイン」を踏まえ、以降に示す 2 点に着目した観光振興の取組みを展開していきます。



江戸東京博物館



大相撲



両国発着場

<具体的な取組みイメージ>

まちの発信力を高めるための施策の展開

- 水辺の賑わいの再生と創出
- 地域資源の活用と発信力の強化
- おもてなし気運の醸成とまち歩き観光の促進

まち歩き環境の魅力高めるための施策の展開

- 賑わい軸の創出
- まち歩き拠点の形成
- 水辺の賑わいゾーン・水辺の記憶ゾーンの形成

等

【戦略拠点：東京スカイツリー周辺ゾーン】

押上・吾妻橋を中心とする本ゾーンには、墨田区において最も集客力のある東京スカイツリーが立地しており、また鉄道・地下鉄・バス・舟運といった様々な交通機関の結節点でもあります。このように本ゾーンは、すみだ観光の集客の拠点ともなるゾーンであり、本ゾーンから区内回遊を促すことが墨田区全体の観光振興において極めて重要です。

このため、本ゾーンを「戦略拠点」として位置づけ、戦略的・集中的に観光振興を図っていきます。

東京スカイツリー周辺ゾーンは、墨田区において最も集客力のある東京スカイツリーが立地するとともに、国内有数の観光地である浅草にも隣接しています。また、東京スカイツリーと浅草はともに、外国人観光客が数多く訪れる場所でもあります。

このため、本ゾーンは、区外から観光客を誘導し、区内全域へと観光回遊を促す、すみだ観光の回遊拠点として位置づけ、以下の3点に着目した観光振興の取組みを展開していきます。



東京スカイツリー®・スカイツリータウン®

<具体的な取組みイメージ>

区内回遊を促すための情報発信

「産業観光プラザ すみだ まち処」における観光資源の紹介や案内・誘導機能の更なる充実

区内循環バスの利用促進

外国人観光客への案内・誘導の充実 等

他地域との連携強化

北十間川を活用した舟運の更なる活性化と、それによる他地域との連携強化（浅草、日本橋、お台場など）

「北十間川水辺活用構想」に基づいた、隅田川から東京スカイツリーへと至る安全・安心・快適な水辺の回遊路整備（浅草方面からの誘客促進）

鉄道事業者（東武鉄道、京成電鉄、東京メトロ、都営地下鉄、JR 等）との連携による、区外からの誘客促進 等

東京スカイツリーと周辺の観光資源との連携強化

東京スカイツリーから、商店街等の周辺の施設・観光資源への回遊を促す仕組みづくり（周辺資源を巡る回遊イベントの実施、周辺の商店街と連携した集客イベントの開催等）

【戦略拠点：向島ゾーン】

本ゾーンは、すみだ観光の集客の拠点である東京スカイツリーに隣接するとともに、花街や向島百花園、隅田川七福神など、墨田区の特徴である江戸文化に関わる主要な観光資源が点在しています。

このため、本ゾーンを「戦略拠点」として位置づけ、戦略的・集中的に観光振興を図っていきます。

向島ゾーンには江戸時代から続く由緒ある花街、江戸時代に開園した四季折々の草花が楽しめる向島百花園が立地するなど「江戸文化」の魅力を体感できるゾーンとなっています。2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えた観光振興を考えた場合、こうした「江戸文化」の魅力を国内外にアピールすることは、墨田区の観光振興を図る上で非常に有効です。

このため本ゾーンは、花街、向島百花園、隅田川七福神めぐりなど、江戸文化に親しむ観光の拠点として位置づけ、以下の3点に着目した観光振興の取組みを展開していきます。



向島歴史散策案内のサイン

<具体的な取組みイメージ>

江戸文化を感じさせる環境整備

花街らしい趣と風情が感じられる見番通り等の街路の景観整備
地域の歴史・文化が感じられる公園の整備（梅若公園等） 等

花街の魅力を活かした観光プログラムの充実

気軽に花街の魅力に触れることができる体験プログラムの開発・実施
外国人観光客向けの体験プログラムの開発・実施 等

東京スカイツリー周辺ゾーンとの連携強化

区内有数の集客力を誇る東京スカイツリー周辺ゾーンにおける花街や向島百花園、隅田川七福神めぐりなどの情報発信、案内誘導の促進 等



向島花街の芸妓衆



向島の料亭



向島百花園

広域連携の強化による観光的魅力の向上

東京都が平成 26 年 12 月に策定した「外国人観光客の受入環境整備方針～世界一のおもてなし都市・東京の実現に向けて～」では、「多言語対応の改善・強化」「情報通信技術の活用」「国際観光都市としての標準的なサービスの導入」「多様な文化や習慣に配慮した対応」「安全・安心の確保」の 5 つの視点で外国人観光客の受入環境整備を進めることとしています。また、外国人観光客が良く訪れる都内 10 地域（新宿・大久保、銀座、浅草、渋谷、東京駅周辺・丸の内・日本橋、秋葉原、上野、原宿・表参道・青山、お台場、六本木・赤坂）と、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会の競技会場周辺を重点整備エリアに位置づけており、区市町村・民間事業者などと連携を図り、都が主体となって取組みを行うことが示されています。

墨田区の東京スカイツリー周辺は、重点整備エリアのひとつである「浅草エリア」に含まれていることと、国技館も 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会におけるボクシングの競技会場となっていることから、国技館周辺も同じく重点整備エリアとして位置づけられています。したがって、2020 年に向けた観光振興の取組みを進めるにあたっては、東京都や関連する自治体との連携が欠かせません。

また、墨田区における観光資源は、関連する自治体と民間事業者、各種団体などと連携することで、面的な広がりを持たせることができ、観光資源の更なる魅力向上や観光客の満足度向上につながることを期待されます。例えば、河川でつながる地域との「舟運」や、「北斎・江戸文化」などの歴史・文化、墨田区の代表的な産業「ものづくり」などをテーマに連携を図り、各種取組みや観光プロモーションを連携して実施することで、より効果的に観光振興を進めていくことができます。

更に、墨田区の観光的魅力を向上させるために、本プランで掲げる 5 つの基本戦略のうち、「戦略 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集」「戦略 産業と観光の融合」「戦略 水都すみだの再生」を軸に、関係する自治体や民間事業者、団体などと積極的に広域連携を図ります。

<具体的な取組みイメージ>

国や都、他地域との連携による観光プロモーションの実施

近隣区との連携による観光プロモーションの実施

国や東京都が主体となって実施する観光プロモーションに関する事業への参画

交通機関でつながっている地域や、歴史的・文化的に墨田区に縁のある地域との連携強化

川でつながる地域との舟運事業連携

都内の他の文化施設集積ゾーンとの連携

江戸文化、下町文化を継承している地域との連携

ものづくりや食、商店街等、産業をテーマにした連携

リーディングプロジェクト

「お・も・て・な・し」の展開 ～国際観光都市をめざして～

2020年（平成32年）に開催されるオリンピック・パラリンピック東京大会は、世界的に見て非常に注目度の高いイベントであり、国内外から数多くの観光客が訪れることとなります。墨田区は、ボクシングの競技会場に予定されている国技館を始めとして、東京スカイツリーや江戸東京博物館など都内有数の観光資源を有し、オリンピックの競技会場が集中する江東区に隣接しており、開催期間中は国内外から多くの観光客の来訪が期待できるとともに、事前の準備期間も含めて、その注目度は非常に高まることが予想されます。

このため、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据え、墨田区の魅力を国内外にアピールするための取組みやハード・ソフト両面での外国人観光客受入れのための環境整備などを推進することで、本プランの目標でもある「国際観光都市すみだ」の実現を図ることとします。

墨田区の観光資源を活かした、外国人向け観光プログラムの充実

外国人観光客の誘客にあたっては、墨田区ならではの観光資源を活用し、外国人観光客のニーズに合わせた観光プログラムの充実が不可欠です。これまで実施してきた、墨田区ならではの魅力を活かしたイベントの開催やテーマごとに設定したまち歩きコースなどをベースに、外国人向けのプログラムに再編集していくことが求められます。

第3章で示した、墨田区の数ある観光資源の中でも特に特徴的な3つのテーマ「北斎・江戸文化」「すみだの産業」「水都すみだ（水辺、舟運など）」を中心に、墨田区ならではの魅力に触れられる観光プログラムの充実を図ります。



外国人向けものづくり体験の様子（アトリエ創藝館）



外国人向け観光舟運体験の様子

外国人観光客と区民が交流する場の創出

墨田区の魅力を伝えるには、墨田区ならではの観光資源を巡ってもらうことに加えて、区民と直接交流することで、その地域に根ざした生活や文化に触れてもらうことが重要です。例えば、町会・自治会単位のお祭り、盆踊り、商店街の朝市など区民が参加するごく当たり前のイベントや行事でも、外国人観光客の目にはとても珍しく、魅力的に映ります。

そこで、墨田区を訪れる外国人と区民が触れ合い、交流できる機会を積極的に創出するとともに、外国人観光客の満足度を高め、国際交流の促進を図ります。



ゆかた de ガイドツアーの様子



まち歩きガイドツアーの様子

外国人観光客の受入れ体制の強化

外国人観光客の更なる誘客及び国際交流の促進にあたっては、その受入れ体制を強化しておくことは必要不可欠です。

そのために、ハード面とソフト面の両面からの受入れ体制の強化を図ります。具体的には、ハード面の対応としては、外国人観光客も快適にまち歩き観光ができるような多言語対応の公共サインの充実やインターネット上の観光情報を手軽に取得できるようなWi-Fi環境の整備などが考えられます。また、ソフト面の対応としては、観光案内所や飲食店において外国語対応可能なスタッフの配置・育成や観光案内マップ、飲食店のメニューの多言語対応、宗教、文化に配慮した食の提供などが挙げられます。



多言語に対応した観光案内サイン



両国観光案内所

墨田区の魅力を伝えるプロモーションの展開

外国人観光客の更なる誘客にあたっては、前頁の取組みを踏まえ、墨田区が外国人観光客にとってフレンドリーな地域であり、かつ、他地域にはない魅力的な観光資源が存在する地域であることを海外に向けて情報発信していくことが重要です。

そこで、海外に向けた観光プロモーションにあたっては、発地側・着地側双方での情報発信を強化することに加え、墨田区の魅力を最大限に伝えるために、国や都、近隣区、関係自治体のほか、東京スカイツリー、交通事業者などの関係する民間団体とも積極的な連携を図り、広域的な観光プロモーションを展開します。更に、多様化する情報発信媒体を複数活用し、より多くの外国人観光客にすみだ観光の魅力が伝えられるよう、情報発信を行います。

<具体的な取組みイメージ>

墨田区の観光資源を活かした、外国人向け観光プログラムの充実

江東内部河川等の舟運を活用して、墨田区の観光資源を回遊する観光ルートの設定
北斎・江戸文化について学ぶ観光プログラム
すみだのものづくり・伝統工芸に触れる体験プログラム 等

外国人観光客と区民が交流する場の創出

町会・自治会のお祭りや商店街の朝市などの行事に参加し区民と交流できるプログラムの創出 等

外国人観光客の受入れ体制の強化

<ハード面>

外国人観光客が快適にまち歩き観光ができるような多言語対応の公共サインの充実
Wi-Fi 環境の整備 等

<ソフト面>

観光案内所や飲食店において外国語対応可能なスタッフの配置・育成
飲食メニューの多言語化や多様な宗教及び文化への対応など、外国人向けの食の取組みの推進
外国人観光客を受入れるための“おもてなし講座”の実施 等

墨田区の魅力を伝える観光プロモーションの展開

海外マスメディアや旅行会社、観光ガイドブック等への情報提供を行うなど、海外における観光プロモーションの強化（発地側での観光プロモーション）
外国人に人気のある観光施設と連携するなどして、訪日外国人に向けた観光プロモーションを強化（着地側での観光プロモーション）
国や都、近隣区、関係自治体のほか、東京スカイツリー、交通事業者等の関係する民間団体とも積極的な連携を図り、広域的な観光プロモーションを展開
インターネットやマスメディア、マップ、パンフレット等、多様化する情報発信媒体を複数活用した情報発信 等

リーディングプロジェクト

都市トランジット観光の推進 ～移動すること自体が楽しい観光地づくり～

墨田区内には、鉄道や地下鉄、路線バスといった一般の公共交通機関のほか、水上バスなどの観光舟運、墨田区内循環バス、水陸両用バスなど、区内及びその周辺を巡る様々な乗り物があります。

また、向島の「見番通り」、両国と錦糸町を結ぶ「北斎通り」、スカイツリーの眺望を楽しめる「タワービュー通り」、押上・業平橋地区と錦糸町地区を結ぶ「大横川親水公園」など散策に適した様々な“通り”があります。更に、隅田川や荒川をはじめ、北十間川などの江東内部河川の川沿いには遊歩道や公園が整備されており、徒歩や自転車で区内を快適に巡れるような環境が整っています。特に、舟運や自転車は区内だけに留まらず、近隣区の観光資源などと連携を図ることで、より魅力的な都市トランジット観光が行える可能性を持っています。

このように、鉄道やバス、船、自転車などの乗り物、徒歩といった多様な移動手段で区内を巡ることが墨田区の特徴であり、魅力でもあります。このため、観光振興にあたっては、交通インフラの更なる充実や景観整備、これらを活用した観光プログラムの開発・実施を図るなど、移動すること自体が楽しい観光地づくりを推進します。

都市トランジット観光の基盤整備の実施

墨田区には鉄道やバス、船、自転車などの乗り物、徒歩といった多様な移動手段が存在します。今後、観光客にとって利用しやすい都市トランジット観光を推進していくためには、交通結節点をはじめとした基盤整備の充実が必要です。特に舟運においては、隅田川で運航される大型船と江東内部河川内で運航される小型船とを乗り継げる拠点ができることで、墨田区以外の観光資源と連携した広域的な都市トランジット観光が可能となります。

また、観光客が移動すること自体を楽しく感じられるようにするためには、その移動空間の景観整備や賑わいの創出が必要となるため、こうした空間の整備も併せて実施します。



舟運の拠点となりえる吾妻橋船着場



イベントで賑わうタワービュー通り

< 乗り物で巡る・楽しむ・体感する >



水上バス（両国発着場）



墨田区内循環バス



水陸両用バス

< 徒歩や自転車で巡る・楽しむ・体感する >



北斎通り



タワービュー通り



墨堤・隅田川



見番通り



大横川親水公園



商店街

都市トランジット観光プログラムの創出・充実

墨田区ではこれまで、四季を通じて楽しめる24のまち歩きコースを設定した「すみだまち歩き博覧会」を展開してきました。これは、墨田区の観光資源を各テーマに沿って歩いて巡るように設定したのですが、バスや舟運、自転車などの多様な移動手段を組み合わせることで、面的により広がりのある観光が可能となります。

そこで、「すみだまち歩き博覧会」の中で取り上げられている、歴史や文化、産業やものづくり、食などのテーマを基に、まち歩きの中にバスや舟運などの移動手段を組み込むことで、墨田区全体で楽しむことができる、都市トランジット観光プログラムの創出・充実を図ります。

墨田区における都市トランジット観光のPR・情報発信

一方で、墨田区内にこれだけ多様な移動手段があり、それを活用することでより観光が楽しめるということは、あまり知られていません。したがって、創出した都市トランジット観光プログラムなどの内容をインターネットやパンフレットなどの複数の情報媒体を活用して、その魅力についてPRを行い、観光客にその魅力を知ってもらうことが重要です。

また、観光客にとってこれらの移動手段が利用しやすいものとなるよう、運行ルートや乗降場所などが示されたマップの作成をはじめ、時刻表・乗換情報などを一元管理し、発信していくことが重要です。

<具体的な取組みイメージ>

都市トランジット観光の基盤整備の実施

大型船と小型船との間で乗換えが可能な舟運の結節点を整備

バス・舟運・水陸両用バス・自転車等、各移動手段の交通結節点・乗降場所等の整備

観光客が気持ちよく移動できるようにするための移動空間の景観整備

観光客が楽しめるようにするための主要な通りや商店街の賑わいを創出 等

都市トランジット観光プログラムの創出・充実

「すみだまち歩き博覧会」のテーマを基に複数の移動手段を取り入れた、墨田区全体で

楽しむことができる、都市トランジット観光プログラムの創出・充実 等

墨田区における都市トランジット観光のPR・情報発信

都市トランジット観光の魅力を知ってもらうために、インターネットやパンフレット等
によってPRを実施

バスや舟運、水陸両用バスのルート、乗降場所などの情報が示されたマップの作成

各移動手段の時刻表や乗換情報などを一元管理・発信 等

基本戦略・基本施策の体系とリーディングプロジェクト

基本戦略

基本施策

戦略

観光プロモーションの充実

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けた観光プロモーション
- 他地域との広域連携による情報発信
- 多様化する情報発信媒体の活用
- すみだならではの魅力の発掘・再編集
- イベント情報の一元管理と情報発信
- MICEの誘致

戦略

北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集

- すみだ文化ゾーンの創出
- 世界的な芸術家・北斎に着目した観光的魅力の向上
- 「両国観光まちづくりグランドデザイン」の推進
- 江戸文化を活用した観光プログラムの充実
- 江戸情緒を醸し出す景観の創出

戦略

産業と観光の融合

- 3M運動等と連動した“ものづくり観光”の推進
- “ものづくり”のブランド力を活かした新たな誘客
- すみだならではの食を活用した“まち歩き観光”の推進
- 商店街・商業施設と連携した観光プログラムの充実

戦略

水都すみだの再生

- 水辺空間を活用した賑わいの創出
- 舟運を活用した回遊性向上と新たな魅力づくり
- 広域連携による観光舟運の活性化

戦略

観光振興を支える基盤の充実

- 安全・安心な観光地づくり
- 次世代の観光まちづくりの担い手の育成
- 観光客の受入れ体制の強化
- 国際交流の推進
- 公共空間を活用した賑わいの創出
- 快適に回遊できる美しい都市環境の充実
- 主要観光ルートでの賑わい創出と魅力の向上
- 回遊性向上のための交通インフラの充実
- 情報インフラの充実
- すみだ観光の品質管理

施策展開

海外における観光プロモーションの強化（発地での観光プロモーション） 訪日外国人への情報発信（着地での観光プロモーション）
他地域との連携による観光プロモーションの展開 国や都との連携による観光プロモーションの実施
様々な媒体を活用した観光情報の発信 フィルムコミッションの推進
既存地域資源、既存のまち歩きコースのブラッシュアップ 新たな観光資源やまち歩きコースの発掘・開発
区内で開催される各種イベントの情報を一元管理する仕組みの構築 各種イベントの情報を観光客が容易に取得できる仕組みの構築
MICE 誘致に関わる取組みの推進
区内の博物館、美術館等の文化施設の連携体制の構築 「すみだ文化ゾーン」の積極的なPR・情報発信 博物館や美術館等と連携した回遊促進 都内の他の文化施設集積ゾーンとの連携
すみだ北斎美術館の整備と北斎通りの魅力向上 北斎に関わる観光プログラムの充実 北斎と墨田区との関係に関する情報発信
まちの発信力を高めるための施策の展開 まち歩き環境の魅力を高めるための施策の展開
関連団体との連携等による観光プログラムの更なる充実 江戸・下町文化を継承している地域との連携強化
主要観光ルート等における江戸情緒が感じられる景観整備 歴史文化公園の整備
3M運動の推進 オープンファクトリーによる回遊促進 すみだらしい“ものづくり体験”の充実
「すみだ地域ブランド戦略」を活かした観光施策の展開
食を活用した回遊促進 外国人向けの食の取組みの推進
商店街や商業施設と連携した回遊促進 地域商店街の特色を活かした取組み支援
水辺の魅力向上による賑わいの創出 水辺の観光拠点の整備 水辺の観光回遊動線の整備
新たな魅力づくりによる観光舟運の活性化 観光舟運を活用した区内回遊の促進
東京都や近隣区との連携強化 川でつながる地域との広域舟運連携
多言語による様々な情報提供体制等の構築 事業者、地域と区が連携した避難体制の構築 災害時の観光客等受入れ先の確保 防犯カメラの設置等による安全確保 ユニバーサルツーリズムの推進
観光まちづくり読本の作成 地域を題材にしたセミナー等の実施 学習プログラムの開発 キッズサポーター制度の導入
観光案内・ガイドの更なる充実（認定制度等） 外国人観光客の受入れ体制の強化（人材育成等） 平和学習・防災学習の拠点づくり 修学旅行等に活用できる学習プログラムづくり
外国人観光客との交流促進 海外からの修学旅行の誘致、区内の学生との交流プログラムの構築
水辺と周辺空間の一体的な整備 河川や道路等の観光活用（イベント等）
すみだ花の道の整備 北十間川・隅田公園観光回遊路の整備 まち歩きトイレの整備 道路バリアフリーの整備 江東内部河川遊歩道の整備 オリンピック競技施設周辺等の無電柱化の実施 主要道路の景観整備 屋外広告物の景観誘導に関するガイドラインの策定・運用
タワービュー通り等の賑わいの創出
自転車利用環境向上に向けた取組み 区内循環バスや観光舟運の活用
史跡等観光資源の案内表示の充実・整備 外国人観光客に対するWi-Fi環境の向上 公共サインの情報更新・充実、多言語対応 観光拠点の認知度向上と情報発信拠点としての機能強化
観光客満足度調査等の実施 観光施設、観光資源の磨き上げ 観光客おもてなし体制の充実

リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクト

3つの戦略拠点を核とした観光振興の推進と広域連携強化

リーディングプロジェクト

「おもてなし」の展開 ～国際観光都市をめざして～

リーディングプロジェクト

都市トランジット観光の推進 ～移動すること自体が楽しい観光地づくり～

第6章 実現化の仕組み

1. 「すみだ観光力」の向上と「すみだモデル」の構築

5つの戦略と3つのリーディングプロジェクトの展開による「すみだ観光力」の向上

本プラン第3章に示した5つの基本戦略と、第4章に示した基本戦略に基づく28の施策は、墨田区の観光振興にあたっての基本的なメニューを示したのですが、各施策を個別・単発的に実施しても大きな成果・効果を上げることはできません。これらのメニューは、相互に連携しながら実施することで、より大きな効果・成果を生み、「すみだ観光力」の向上につなげることができます。

一方、第5章に示したリーディングプロジェクトはいずれも、5つの基本戦略及び28の施策と深い関わりを持っており、これらのプロジェクトを先導的に実施することで、各戦略、各施策の実現に結びつけることを意図しています。

このため、墨田区の今後の観光振興においては、区民、各種団体、民間事業者、観光協会、行政などの各主体が連携・協力しながら、3つのリーディングプロジェクトを中心に進めます。そして、追従するように他の施策に着手し、5つの基本戦略に基づく28の施策の実現を図り、「すみだ観光力」の向上を図ることを基本とします。

すみだ観光を支える「すみだモデル」の構築

墨田区では、これまでに区内の観光資源を発掘し、それらを観光客自らが歩いて回る「まち歩き観光」を主体に、都市型観光のひとつの在り方を提示するとともに、区の観光振興を図ってきました。こうした動きは、墨田区独自のものであるとともに、今後の「すみだ観光力」の向上には欠かせない、基礎となるものです。

また、継続して墨田区の観光振興を図っていくためには、墨田区の魅力的な観光資源や、まち歩き観光をはじめとしたこれまで培ってきた観光振興のノウハウを次世代に伝えていくことが重要です。

そこで、まち歩き観光と次世代の担い手の育成という2つの観点から、将来的にも持続可能な観光振興を進めていくために、墨田区の将来を見据えた「すみだモデル」の構築が重要となります。これまで実施してきた観光振興に関わる取組みのプロセスを確かなものとし、それを次世代に伝えることで、すみだ観光を支える「すみだモデル」の構築を図ります。



まち歩きガイドツアーの様子

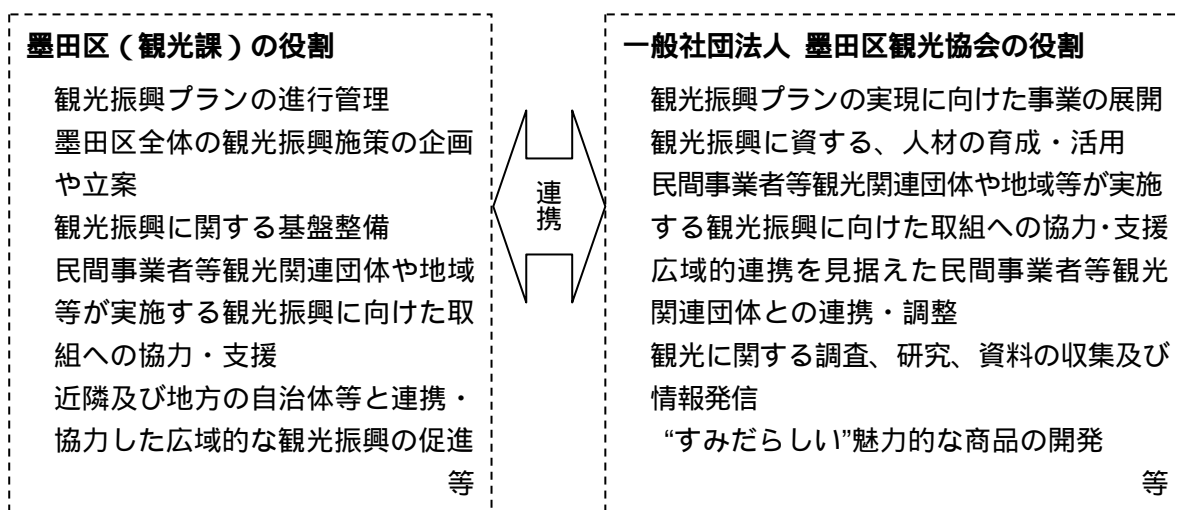
2. 担い手の役割と人材育成

(1) 担い手の役割

国内外からの観光客を増加させ、「国際観光都市すみだ」を実現するためには、観光振興を担うべき主体がその役割を適切に遂行していくことが求められます。また、それぞれが必要に応じて機能強化を図りつつ連携を深め、効果的な取組みを進めていくことが不可欠です。

墨田区と墨田区観光協会の役割

平成 21 年 5 月に一般社団法人となった墨田区観光協会は、観光振興に関わる多様な取組みを展開しているところであり、行政からの支援に頼らない自立した組織へと成長しつつあります。観光協会は、墨田区の観光振興を図る上で行政との重要なパートナーであると同時に、すみだ観光全体の牽引車としての役割が求められます。そこで、観光振興プランを進めるにあたっては、観光協会と密に連携を図りつつ、下図に示すそれぞれの役割を担い、施策を展開していくこととします。



その他の主体の役割

まち歩き観光を主体とするすみだ観光の振興にあたって、区内にある民間事業者や区民の協力は欠かすことができません。墨田区を訪れた観光客と直接触れ合う機会が多いことに加え、本プランの戦略に掲げている水辺の賑わい創出や産業との融合などは民間事業者の協力なしには成立しません。したがって、民間事業者や区民においては、次に示すような役割が想定されます。

民間事業者（NPO法人を含む）の役割

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた、外国人観光客向け商品やサービスの造成
観光客ニーズに対応した商品やサービスの提供（ビジターズ・インダストリー）
すみだのPRを含めた観光情報の提供
区民との連携による観光まちづくりの推進
おもてなしの心で観光客に接することができる人材の育成

区民（ボランティア団体を含む）の役割

外国人観光客も含めた、観光客に対するおもてなしの心をもった応接
わが街すみだへの愛着と誇りを持ち、地域の歴史・文化への理解を深める
観光ガイドの活動などへの参加
地域の特性にあった、観光まちづくりの実践

（２）担い手の育成

区民参加を促し、区全体で支え、振興を図る「すみだ観光」

墨田区を訪れる観光客などに対して、おもてなしの心をもって区の魅力や情報を提供することのできる区民がたくさん育つことが、すみだファンを増やし、リピーターの増加につながることを考えられます。また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、国内外の観光客の増加が想定されますが、観光客を温かく迎えるためには、行政や観光に関わる事業者、団体だけでなく、区民の参加も重要となります。

そこで、区の観光資源や歴史・文化などについて、区民が楽しく学ぶ機会の充実を図るとともに、区民の観光振興のアイデアがツアーやコースづくりに反映される仕組みが必要となります。また、区民自身が発案し、自ら観光事業の担い手になることができるように、活動を支援する仕組みを充実させることが重要です。

将来のすみだ観光を支える、次世代の担い手の育成

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催時には、今現在、区内の学校に通う児童・生徒などが、墨田区の観光に何らかの形で携わっていることが想定されます。加えて、2020年以降の長期的な視点で見れば、墨田区の観光産業が成長し続けていくためには、現段階からその担い手を育成しておくことが非常に重要となります。

そこで、第4章で示した28の施策の中にもあるように、次世代の担い手となりえる区内の児童・生徒などが墨田区の観光や産業について学ぶ機会やツールをつくり、教育機関との連携も図りながら、次世代のすみだ観光に携わる担い手の育成を進めていくとともに、知識や経験が豊富な企業等を退職したシニア層の活用も進めていきます。

3 . 観光振興に向けた様々な連携

(1) 産業間の連携による観光振興

＜戦略Ⅲ | 産業と観光の融合＞でも掲げているように、墨田区にはものづくりや伝統工芸、昔ながらの商店街など、観光資源になりえる特徴的な産業が数多く存在します。また近年は、ご当地グルメや食べ歩きツアーなど、観光における地域の食への注目度が高くなっています。いずれも観光にとって魅力的なコンテンツであり、墨田区には、それらの各分野で、魅力あるコンテンツとなる資源が揃っています。

今後の観光振興にあたっては、地域に根差している産業が観光と融合することで、更なる発展を遂げられるよう、各コンテンツの磨き上げを行うとともに、観光に関連する産業との連携をより一層図ることとします。



小さな博物館「江戸小紋博物館」



子供向けものづくり体験
(アトリエアミーチ)



「おいしい下町」イベントの様子



キラキラ橋商店街

(2) 世代間の連携による観光振興

観光振興にあたっては、様々な世代が力を合わせ、知恵やアイデアを募ることで、魅力的な観光プログラムをつくり、売り出していくことが重要です。今後の墨田区の観光振興においては、若年層から高齢者までの様々な世代の参画を促し、連携を図ることを基本とします。

また、将来的に継続して観光振興を図るためには、墨田区の魅力やこれまで培ってきた観光振興のノウハウを、次世代の担い手に伝えていくことが重要です。したがって、墨田区内の児童や生徒、若い世代を巻き込んで、区内の世代間交流の場を積極的につくり、魅力やノウハウを世代間で共有していくこととします。

(3) 区内のエリア間の連携による観光振興

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会までを計画期間とする本プランでは「第1章 3. すみだ観光のこれから」で示したように、選択と集中の考え方に基づき、戦略的に効果的な観光振興を展開していきます。

「リーディングプロジェクト①：3つの戦略拠点を核とした観光振興の推進」で示したように、両国ゾーン・東京スカイツリー周辺ゾーン・向島ゾーンの3ゾーンは、戦略拠点として先導的に取組みを展開していきますが、8つの観光拠点エリアについては、5つの基本戦略に基づく28の施策の実施に合わせて、各拠点の観光力の底上げを図ります。具体的には、既存の観光資源を活用しつつ、まち歩き観光におけるルートの再編集、舟運や区内循環バス、歩行空間の整備などによるネットワークの構築・見直し、エリアをまたいだ地域テーマやコンテンツごと資源間の連携などについて検討します。



タワービュー通り



各エリアをつなぐ区内循環バス

(4) 区外の地域との広域連携による観光振興

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、国内外からの観光客の増加が考えられますが、より多くの観光客に墨田区を訪れてもらうためには、区外の地域と連携することで、より一層、観光的魅力を高めていくことが重要です。そこで、訪日外国人観光客などの宿泊旅行回数や滞在日数の拡大をめざし、広域連携による観光プロモーションや各観光地をより広域的にネットワーク化した広域観光圏の形成について、周辺自治体などとの連携を視野に検討を行います。

また、まち歩きイベントや観光マップなどの企画にあたっては、その魅力を高めるために行政区域を越えた広域展開も積極的に進めていきます。更に、舟運を利用した観光振興についても、墨田区内で留めるのではなく、観光客がより楽しめるように、行政区域を越えた広域展開についても積極的に進めていくこととします。



墨田区・台東区・江東区による
3区合同観光プロモーション

(5) 国・東京都との連携による観光振興

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会までの期間に各施策をスムーズに展開していくためには、国や都の動きと連携・調整を図ることが重要です。特に外国人観光客の誘客や海外に向けた観光プロモーションは自治体単位での取組みに限界があるため、国や都との連携は不可欠となっています。加えて、連携を図ることで施策がより効果的なものになることが想定されます。また、国や都が管理する道路や河川、公園などを有効に活用するためには、連携・調整が不可欠です。

したがって、下記に示す取組みについては、国や都と連携を図りつつ、施策を実施していくこととします。

国・東京都と連携を図りながら進めていく取組み

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた観光プロモーション
訪日外国人観光客誘致促進のための取組み
行政区域を越えた広域的な観光連携の促進
国道、都道等における観光案内機能の整備
河川の活用に伴う環境整備

等

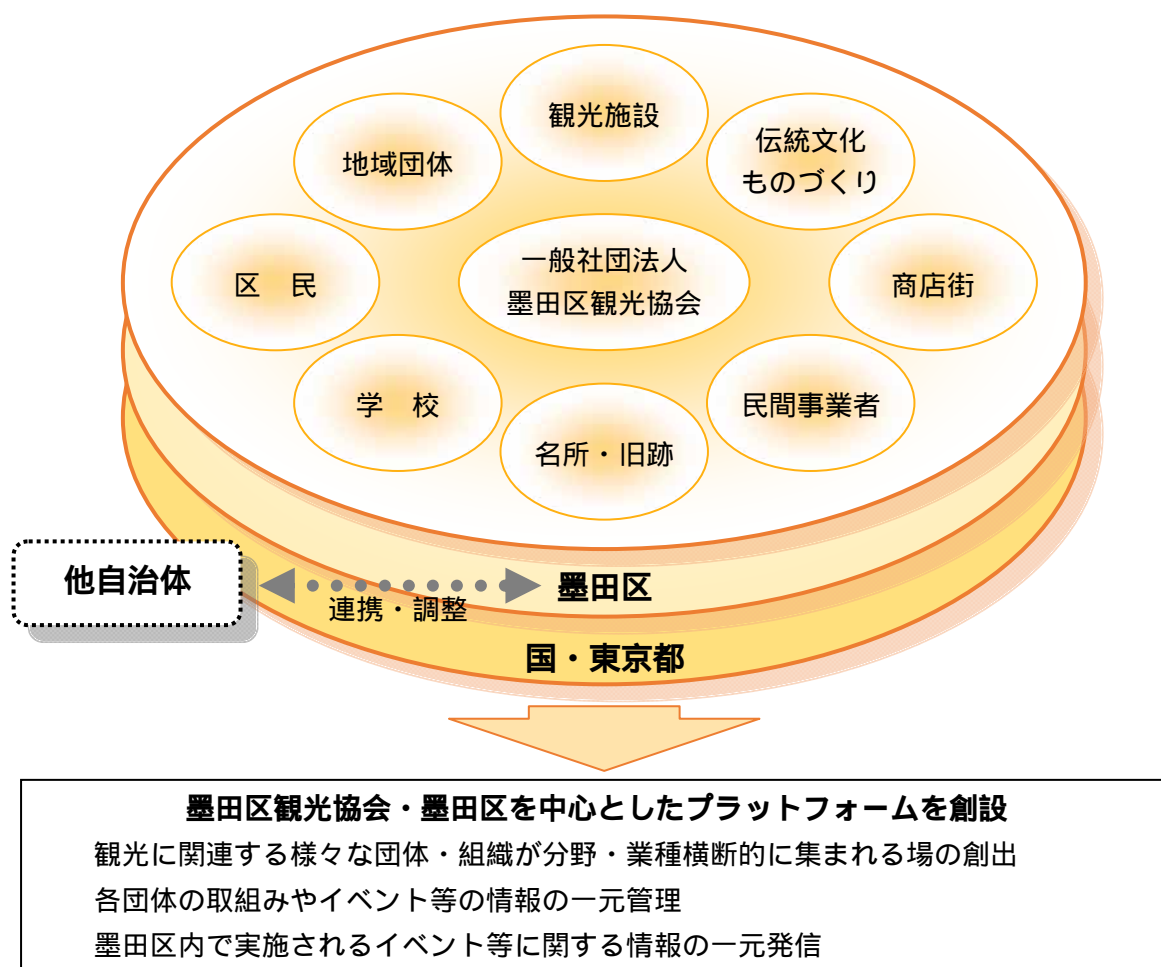
4 . 観光振興に向けたプラットフォームづくり

墨田区の観光振興にあたっては、観光に関わる民間事業者や観光協会、行政のみならず、広く区民の力を集め、市民参画、市民協働の考え方に基づいて推進することが重要です。特に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を迎えるにあたっては、観光ボランティアをはじめとして、多くの区民の参画・協力が必要です。

また、墨田区全体の観光振興を図る上では、区内で活動している観光に関連する様々な団体・組織が分野・業種横断的に集まり、今後の戦略や取組みについて意識や理解を共有するような場を設けることが重要です。

このため、若年層から高齢者までの区民が観光振興に参画・協力できるような仕組みとして、また、観光に関連する様々な団体・組織が分野・業種横断的に集まれる場として、墨田区観光協会を中心とする各団体間の連絡協議会のようなプラットフォームの創設を検討します。墨田区は、このプラットフォームの取組みを支え、必要に応じて国や都、他の自治体との連携・調整を図ります。

更に、こうしたプラットフォームを通じて、各団体の取組みやイベントなどの情報を集約し、年間イベントカレンダーや観光ポータルサイトなどを介して、観光客に対して一元的な情報発信を図ります。



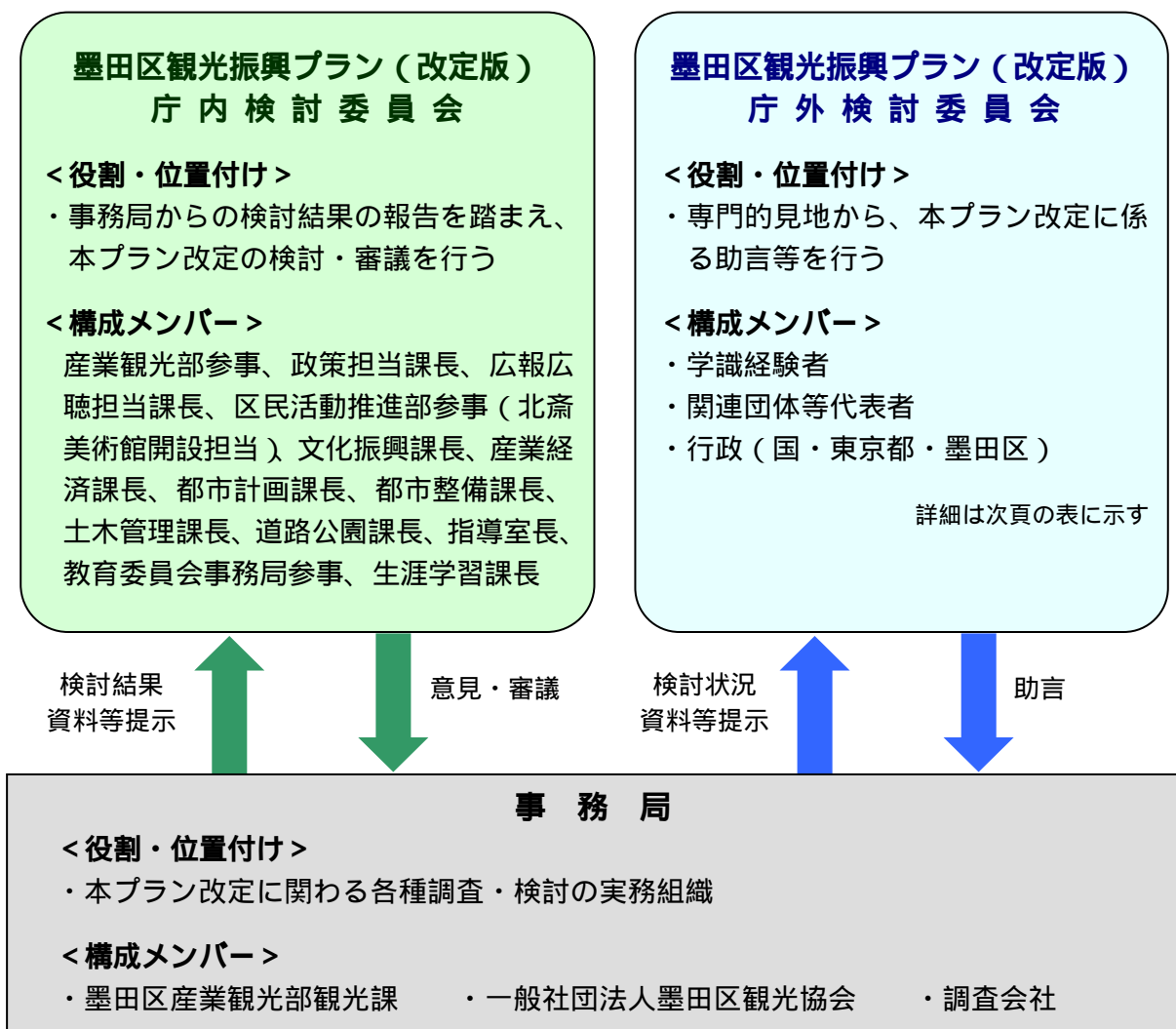
参 考 資 料

- 1．検討体制と検討経緯
- 2．基礎調査の概要

1 . 検討体制と検討経緯

本プランの改定にあたっては、改定の検討・審議を行う「庁内検討委員会」と、専門的見地からの助言を行う「庁外検討委員会」を設置・開催し、各委員会での審議、助言を踏まえて検討を行いました（下図参照）。

墨田区観光振興プラン（改定版） 検討体制組織図



次頁以降に、庁外検討委員会の委員名簿と、検討フローを示します。

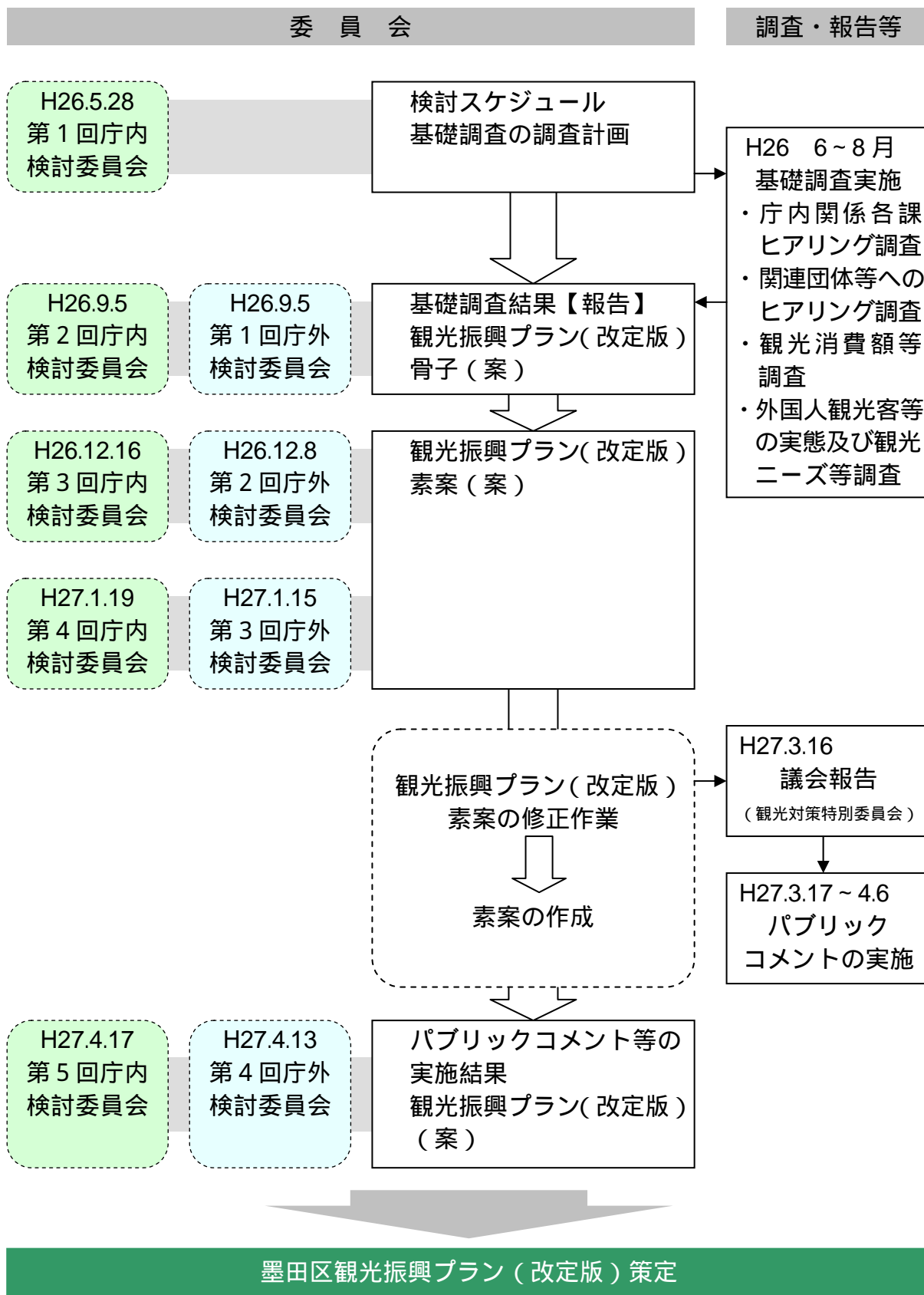
墨田区観光振興プラン（改定版）庁外検討委員会 委員名簿

	氏名	所属・役職
委員長	大下 茂	帝京大学経済学部観光経営学科 教授
委員	阿部 貴明	一般社団法人墨田区観光協会 理事長 兼 東京商工会議所墨田支部 会長
委員	山田 昇	墨田区商店街連合会 会長
委員	池田 和弘（ 1） 荷見 雄二（ 2）	国土交通省関東運輸局企画観光部 観光地域振興課長
委員	鈴木 のり子（ 1） 若林 和彦（ 2）	東京都産業労働局観光部 振興課長
委員	高野 祐次	墨田区 企画経営室長
委員	小暮 真人	墨田区 産業観光部長
委員	梶岡 達朗	東武タワースカイツリー株式会社 取締役営業本部副部長 兼 観光営業部長

1：第1回委員会（H26.9.5）から第3回委員会（H27.1.15）まで

2：第4回委員会（H27.4.13）

墨田区観光振興プラン（改定版） 検討フロー



2. 基礎調査の概要

本プランの改定にあたっては、検討のための基礎的な知見・情報を得るための調査として、「関連団体等へのヒアリング調査」「観光消費額等調査」「外国人観光客等の実態及び観光ニーズ等調査」を実施しました。

以降に各調査の実施概要を示します。

関連団体等へのヒアリング調査 実施概要

項目	内容
調査概要	近年の観光振興に関わる各主体の取組み状況を把握すると共に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を含めて、今後想定している各主体の活動・取組み等を把握するためのヒアリング調査
調査対象	区内の観光関連団体・施設・事業者 29 団体
配布実施日	平成 26 年 7 月 29 日（火）～10 月 24 日（金）
調査方法	対面式ヒアリング
主な調査項目	近年の観光入込客数の動向 / 近年特に力を入れている取組み / 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて予定・計画している取組み 等

観光消費額等調査 実施概要

項目	内容
調査概要	墨田区への来訪者の区内における立寄り地や観光行動、消費行動等の実態について把握すると共に、その推計結果を用いて区内における観光消費額の推計を行うためのアンケート調査
調査対象	区内の主要観光施設、観光案内所等への来訪者（区内在住者含む）
配布実施日	平成 26 年 6 月、7 月の土日（合計 6 日間）
配布場所	区内の主要観光施設、観光案内所等 32 箇所
配布・回収方法	直接配布、郵送回収
配布・回収枚数	配布：10,881 部、回収：1,719 部（回収率：15.8%）
主な調査項目	基本属性 / 来訪目的、来訪経験 / 区内および来訪前後の移動、行動 / 区内での消費行動、消費額 / 墨田区の観光情報取得方法等

外国人観光客等の実態及び観光ニーズ等調査 実施概要

項目	内 容		
調査概要	墨田区を訪れる外国人観光客等の観光行動に関する実態とニーズを把握するためのアンケート調査		
調査実施期間	平成 26 年 6 月 18 日（水）～ 7 月 31 日（日）		
調査方法	区内の観光案内所における対面式調査	区内の主要宿泊施設における留置き式調査	区内等の日本語学校に通う留学生を対象とした調査
調査対象	墨田区への外国人来訪者	墨田区への外国人来訪者	墨田区への外国人来訪者（国内在住者）
配布場所	区内観光案内所（4 か所）	区内主要宿泊施設（11 か所）	日本語学校（3 か所）
配布・回収方法	直接配布 直接回収	チェックイン時配布 チェックアウト時回収	直接配布 直接回収
配布・回収枚数	285 部	174 部	361 部
	計：820 部		
主な調査項目	基本属性 / 来訪目的、来訪経験 / 旅行形態 / 区内および来訪前後の移動、行動、満足度 / 区内での消費行動 / 墨田区の観光情報取得方法 等		

墨田区観光振興プラン

平成 27 年 4 月発行

編集・発行 墨田区 産業観光部 観光課

〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋一丁目 23 番 20 号

電話 03-5608-6500

the 1990s. The 1990s were characterized by a strong emphasis on the development of a national curriculum, which was seen as a means to ensure the quality of education and to promote national unity. The curriculum was developed by a committee of experts, and it was implemented in all schools across the country. The curriculum was based on the principles of the 1984 Education Act, and it emphasized the importance of basic skills and knowledge. The curriculum was also designed to be flexible, so that it could be adapted to the needs of different schools and regions.

The 1990s were also a period of significant change in the Dutch education system. The government introduced a series of reforms, including the introduction of a new school law in 1994. This law gave schools more autonomy and responsibility for their own affairs. It also introduced a new system of school financing, which was based on the number of pupils in each school. The reforms were intended to improve the quality of education and to make the system more efficient.

The 1990s were also a period of significant change in the Dutch education system. The government introduced a series of reforms, including the introduction of a new school law in 1994. This law gave schools more autonomy and responsibility for their own affairs. It also introduced a new system of school financing, which was based on the number of pupils in each school. The reforms were intended to improve the quality of education and to make the system more efficient.

The 1990s were also a period of significant change in the Dutch education system. The government introduced a series of reforms, including the introduction of a new school law in 1994. This law gave schools more autonomy and responsibility for their own affairs. It also introduced a new system of school financing, which was based on the number of pupils in each school. The reforms were intended to improve the quality of education and to make the system more efficient.

The 1990s were also a period of significant change in the Dutch education system. The government introduced a series of reforms, including the introduction of a new school law in 1994. This law gave schools more autonomy and responsibility for their own affairs. It also introduced a new system of school financing, which was based on the number of pupils in each school. The reforms were intended to improve the quality of education and to make the system more efficient.

The 1990s were also a period of significant change in the Dutch education system. The government introduced a series of reforms, including the introduction of a new school law in 1994. This law gave schools more autonomy and responsibility for their own affairs. It also introduced a new system of school financing, which was based on the number of pupils in each school. The reforms were intended to improve the quality of education and to make the system more efficient.

The 1990s were also a period of significant change in the Dutch education system. The government introduced a series of reforms, including the introduction of a new school law in 1994. This law gave schools more autonomy and responsibility for their own affairs. It also introduced a new system of school financing, which was based on the number of pupils in each school. The reforms were intended to improve the quality of education and to make the system more efficient.

The 1990s were also a period of significant change in the Dutch education system. The government introduced a series of reforms, including the introduction of a new school law in 1994. This law gave schools more autonomy and responsibility for their own affairs. It also introduced a new system of school financing, which was based on the number of pupils in each school. The reforms were intended to improve the quality of education and to make the system more efficient.

The 1990s were also a period of significant change in the Dutch education system. The government introduced a series of reforms, including the introduction of a new school law in 1994. This law gave schools more autonomy and responsibility for their own affairs. It also introduced a new system of school financing, which was based on the number of pupils in each school. The reforms were intended to improve the quality of education and to make the system more efficient.